東京女子高等師範學校內
日本幼稚園協會

幼兒の教育

主幹
堀七藏

第二十六卷　三月號　第三號

本邦に於ける幼稚園教育史……堀七藏
私立幼稚園の經營……和田實
こども……よしこ
お雛祭に……松川ヨネ
きびから細工（其五）……山形寛
草花の播種に就いて……大岩金
保育叢談中より……中橋楠雄
幼兒食物の實際……政衛
長編小説　兼ちゃん……岡田美津
自由遊び……ふじの譯

文學士 齋藤茂三郎先生新著

新刊

遺傳と人性

全一冊 ボブリン裝飾洋綴 定價參圓五拾錢 送料拾八錢

興味多き進化論優生學遺傳學の通俗講座

米國の或る不良なる一人の女から數代の間に十百九人と云ふ多數の不良子女を生じたと云ふ。遺傳は重力と同一で其作用する所は絶對である、本書はダーウインの種の起原からゴルトン、メンデル、ラマルク、ワイズマン等進化論から優生學に到る迄、遺傳と人間生活との關係を深刻なる筆致を以て最も科學的に理論的に、而も興味多く、怖るべき數多の實例を擧げて說いて居る、斯くて人間生活の改善に資し社會改造の安全瓣を以て任じて居る、教育者は云迄もなく苟も人間生活の醍醐味に觸れんとする者に是非本書を推奬する

文學博士 吉田靜致著

再版

現代と精神生活

全一冊 洋綴 定價參圓五拾錢 送料拾八錢

先生の大聲叱呼せらるゝ同圓異中心主義は我倫理學界に中樞をなす。本書は先生の倫理的觀念と哲學講座、文檢受驗者必讀要書として好評喧々、近來稀れに見る良書である。

文學博士 久保良英著

四版

增訂精神分析法

全一冊 洋綴 定價參圓五拾錢 送料拾八錢

精神分析法が教育的重要基礎をなすは最近七八年益々確認せらるゝ樣になつた、また現下教育界の大問題「性の教育」の根本的解決を闡明した。

文部省囑託 久保良英 青木誠四郎著

五版

同圓異中心主義と道德生活

全一冊 洋綴 定價參圓五拾錢 送料拾八錢

文檢要書

同圓異中心主義の眞理を會得し之に基きて生活せざれば人世は終に全く破滅の運命に出逢はざるを得ないと言ふ特殊即普遍的なる精神生活の根本義を明かにしたものである。

國府愼一郎著

新刊

幼兒之研究

菊判 洋綴 定價壹圓廿錢 送料拾八錢

低學年、幼稚園の教育は教育の根柢であります。本書はそれ等を知ると共に我學界の尊き研究の發表機關です。

巨理章三郎先生主幹

三版

學校家庭 太郎の實際教育

全一冊 洋綴 定價貳圓七拾錢 送料拾八錢

本書は學校と家庭の兩方面に亘る實際教育について最も適切に書かれてゐる教育家訥君家庭の讀ものとして是非必讀を推奬す。

個性と教育

菊判 洋綴 定價壹圓五拾錢 送料拾八錢

凡ての根本基調は徹底した個性の研究である、本書は斯道學會が各方面の大家を煩し公にした。

發行所 東京市牛込區東良町廿九番地 中文館書店 振替東京八三三四 電話牛込二四二七番

小松耕輔・梁田貞・葛原齒共著

大正幼年唱歌

菊判美裝
價二圓五十錢
郵税十二錢

十二冊合本出來

◇各巻太田畫伯裝◇
◇定價各冊廿五錢◇
◇郵税各冊金二錢◇

第一集目次
一 幼稚園
二 さくら
三 飛行機
四 蝶と春風
五 私の先生

一 ヒアノ
六 おお庭の草花
七 おお人形
八 かくれんぼ
九 おお
一〇 ゼンマイ

第二集目次
一 噴水
二 ほたるの花車
三 藤の花
四 汽船
五 ヤホン玉

一 かへるの
六 おさなき
七 ブランコ
八 小鯉
九 おお船
一〇 みな

第三集目次
一 蟲の月
二 こえ樣
三 飛行船
四 天長節
五 蓄音機

一 林檎の
六 運動會の
七 朝掛
八 腰落葉
九 木舟泥
一〇 舟

第四集目次
一 鶯一月一日
二 雙六遊び
三 梅に鶯
四 雪元節
五 紀元節

一 ストオヴ
六 鶏活動寫眞
七 鶏
八 積木
九 犬と
一〇 猫

第五集目次
一 ごもくづ
二 野遊び
三 蓬ぼたん
四 おべんたう
五 山

一 雛
六 かつぎ
七 つむり子
八 燕
九 おお玉
一〇 どやくしが島

第六集目次
一 水車
二 おもしろい
三 虹猿
四 七夕
五 向日葵

一 ん
六 と
七 浦島太郎
八 立ぼ
九 夏休み
一〇 竹馬

第七集目次
一 お星樣
二 お砂場遊び
三 雁電車
四 お祭り
五 お

一 象
六 粘土細工
七 お客樣
八 お菊母
九 乳
一〇 ゴム

第八集目次
一 餅搗き
二 お角力樣
三 お日船
四 紙風船
五 猿蟹合戦

一 あらまし
六 墨絵紙
七 熊軍
八 大砲
九 艦
一〇 ゴム

第九集目次
一 舌切雀
二 風車
三 雲計
四 時鳥
五 ルミネーション

一 蜜蜂の
六 駱駝
七 鯉ぼり
八 電話
九 鐘
一〇 まつり

第十集目次
一 文福茶釜
二 記念日
三 ステイション
四 自動車
五 蟻

一 蕾
六 朝顔
七 獨逸
八 進軍
九 鈴
一〇 の音

第十一集目次
一 私は善い子
二 の花壇
三 羽の雀
四 小花
五 雲

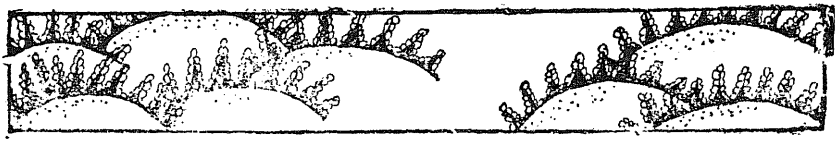
一 雪
六 小さな蝸牛
七 兵士
八 少
九 カンガルー
一〇 ゴム

第十二集目次
一 サンタクロース
二 蠅と蜘蛛
三 鶏
四 太
五 子

一 ゴム
六 あひる
七 小さな花
八 遊ぶ
九 木の
一〇 歌

店黒目書

發行所
東京市京橋區南傳馬町二ノ五
振替口座東京第二八〇九番



日本幼稚園協會編輯幼兒の教育

會長　東京女子高等師範學校長　茨木清次郎

主幹　東京女子高等師範學校教授　堀七藏

贊助員

東京高師教授　巖谷秀雄
東京帝大醫科講師　醫博　乙竹岩造
東京高師教授　文博　太田孝之
慶應大學教授　醫博　大瀨甚太郎
東洋幼稚園長　唐澤光德
早蕨幼稚園長　岸邊福雄
帝國教育會會長　文博　久留島武彥
東京高師教授　澤柳政太郎
東京女子高師教授　文博　佐々木秀一
東京女子高師教授　下田次郎
東京女子高師教授　菅原教造
醫、文博　富士川游
東京市學務課長　藤井利譽
東京女子高師講師　藤五代策
長崎縣師範學校長　福士末之助
文博　谷本富

東洋大學教授　棚橋源太郎
東京府女子師範學校長　田子一民
東京女子高師囑託　高島平三郎
帝國教育會理事　龍山義亮
松江高等學校長　土川五郎
京都帝大教授　文博　野口援太郎
東京女子高師教授　乘杉嘉壽
醫博　野上俊夫
文博　弘田長
倉橋惣三
東京帝大教授　文博　松村武雄
奈良女子高師校長　松本亦太郎
醫博　槇山榮次
奈良女高師附屬幼稚園主事　三田谷啓
東京高等學校長　森川正雄
東京帝大教授　文博　湯原元一
日本女子大學長　吉田熊次
安井哲子

第二十六卷　幼兒の教育　第三號

——（目　次）——

本邦に於ける幼稚園教育史（二）……堀　七藏…三頁
私立幼稚園の經營……和田實…九頁
こども……よしこ…一九頁
お雛祭り……松川ヨネ…二三頁
きびがら細工（其五）……山形寛…二九頁
草花の播種に就いて……大岩金…三四頁
幼兒食物の實際……政衛…四一頁
長編小說　兼ちやん……岡田美津…四八頁
自由遊び……ふじの譯…六〇頁

少年少女常識叢書

◇東京高等師範學校 東京女子高等師範學校 府立師範學校 各中學校 學習院 女學校 教官分擔責任執筆

文部省認定

東京高師茗溪會推奬

各都市教育會賞讃

1 元東京天文臺技手 川龍城著 地震の知識

2 東京小松崎中學教諭 本郷枝著 植物の世界

3 元早大助教授 辻井眞著 蒸汽の偉力

4 東京女子師範教諭 川崎喜一著 火と空氣

5 東京府立一中教諭 白井勝三著 動物の生活

6 元東京天文臺技手 古川龍城著 星の世界

7 東京女高師教諭 中澤伊與吉著 興味の算術

8 東京女高師教授 堀七藏著 發明家と發見家

9 元早大助教授 辻井眞著 瓦斯の魔力

10 東京高師專攻科 辻井寛著 人の行く道

11 學習院教授 岡崎常太郎著 昆虫の世界

12 東京高師教諭 佐藤保太郎著 南半球巡り

13 元早大助教授 辻井眞著 無線電信、無線電話

14 東京小松崎中學教諭 本郷三枝著 空中動物園

15 東京小松崎中學教諭 本郷三枝著 海中旅行

16 學習院助教授 後盛熊著 算術の知識

17 東京肥後高師教授 金子彦二郎著 格言ものがたり

18 東京高師專攻科 鈴木鶴吉著 國語の知識

19 東京女師教諭 川崎喜一著 鐵と石油

20 東京女高師訓導 齋藤英夫著 世界の氣候

21 東京水谷高師助教諭 年惠著 偉人の生涯

22 東京高師教諭 山本幸雄著 北半球巡り

23 東京高師訓導 橋本爲大著 飛行機の話

24 東京女高師教授 堀七藏著 理化學實驗

25 東京美術學校講師 中田俊造著 寫生の樂み

26 東京府立一中教諭 井勝三著 地下さぐり

27 東京白金女子高師教授 彦二郎著 現代常識辭典

28 學習院教授 岡崎常太郎著 我等の身體

29 東京關口台校長 坂口繼輔著 鎌倉物語

30 東京第五中學教諭 田邊晉八著 心の算術

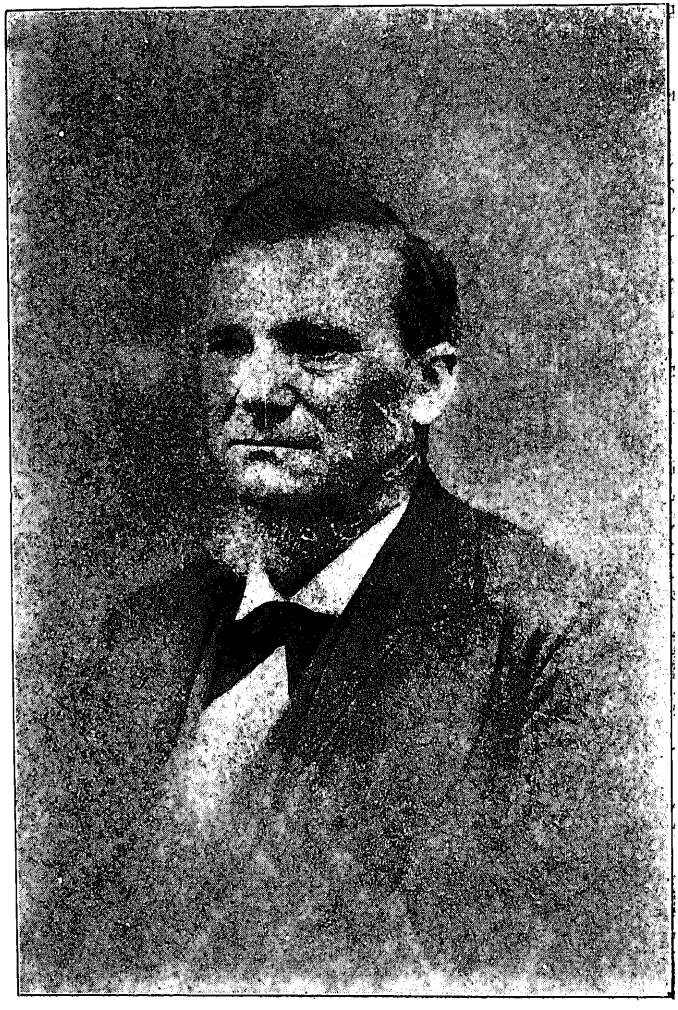
全三十卷

四六判美裝挿畫數十百八十頁前後

定價各金壹圓 送料六錢

◆内容見本進呈◆

東京市牛込區西五軒町四十一番地
發行所 文洋社
電話牛込九一六番
振替東京一五〇九四番



我が國幼稚園に始めて洋樂を教へた獨逸人メイメン氏

明治十五六年時代の幼稚園職員

第二十六卷　幼兒の教育　第三號

大正十五年三月

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進步發展を期する大抱負をもつて產れたもので有ります。

本邦に於ける幼稚園教育史（二）

堀　七　藏

五

明治十五年十二月五日文部省は府縣學務課長學校長を召集し、文部卿九鬼文部輔より教育上の施政に關し示諭する所がありました。その內

幼稚園の編制に就いて次の如きことが述べられてゐます。今日から見ても注意すべき事柄であると思ひます。

文部省直轄ノ幼稚園ハ務メテ園制ノ完全ナランコトヲ期シ而シテ地方ニ於テ設クル所ノモノモ概ネ之ニ摸倣スルヲ以テ規模大ナレバ人ヲシテ都會ノ地ニ非ザレバ之ヲ設クルコト能ハズ又富豪ノ子ニアラザレバ之ニ入ルコト能ハザルノ感アラン。然レドモ幼稚園ニテハ又別種ノモノアリ都鄙ヲ論ゼズ均シク之ヲ設置シ貧民力役者等ノ兒童ニシテ父母其養育ヲ顧ミルニ暇アラザルモノ皆之ニ入ルコトヲ得ベキモノトス此種ノ幼稚園ニ在テハ編制簡易ニシ唯善ク幼兒ヲ看護保育スルニ堪フル保姆ヲ得テ平穩ニ遊嬉ヲナサシムルヲ得バ卽チ可ナリ　是レ尙群兒街頭ニ危險鄙猥ノ遊戲ヲナスモノニ比スレバ大ニ勝

ル所アリ　其父母モ亦係累ヲ免レ生産ヲ營ムノ便ヲ得テ其益蓋シ小ナラサルベキナリ

六

明治十七年二月文部省ハ學齡未滿のものを小學校に入學せしむる風を矯正せんがため學齡未滿の幼兒を學校に入れ學齡兒童と同一の敎育を受けしむるはその害尠からず　幼兒は幼稚園の方法により保育すべき旨を各府縣に令達し尙ほ幼稚國の編成は必ずしも完全の規模を具するもののみに限らず種々簡易の編制法もあれば土地の情況に應じて或は別に設置するなり或は學校の一部を之に充てるなり適宜の方法を計劃すべき旨を通牒いたしました。尙ほ當時の幼稚園の狀況につき統計上の數を見ますと

明治十六年　官公私立幼稚園の總數僅に十一、幼兒數　五四四人

同　十八年　には　三十　一八九三人

實は明治十二年學制を廢して敎育令が制定せられ、その際幼稚園も文部卿の監督內に屬することになり明治十二年十一月十二日の布達に

一、公立幼稚園の設置廢止は公立學校同樣府知事府縣令の認可を受くべし。私立にかゝるものは府知事縣令に開申すること。

二、保育法についても公立幼稚園は公立學校教則と同じく文部卿の認可を受くべく、私立幼稚園は府知事縣令に開申すべきことがあります。そして明治十二年六月大阪府立模範幼稚園が開始せられ保姆練習科修了者木村末、氏原鋹兩女史が保姆となり大に關西に於ける幼稚園の模範として活動せられたものであります。尤もこの模範幼稚園は十六年六月廢園となりました。それは十三年大阪市東區に出來た町立幼稚園である愛珠幼稚園が隆盛となつた爲めであつたと申します。

また鹿兒島縣女子師範學校にも附屬幼稚園が出來て九州に於ける幼稚園の率先をなし和歌山縣には稱兒保育所が出來全國に於ける私立幼稚園の嚆矢をなしたものであります。

谷の雪鶯わたるあちこちと　碧梧桐

大津繪に糞落し行く燕かな　蕪村

私立幼稚園の經營

目白幼稚園　和田實

私がお茶の水を止めて目白に小さな幼稚園を經營し始めてから、丁度今年が十一年目になります。是は在職中から人にも勸めて居つたことを自ら實行したに過ぎませんが、過去十ヶ年の經驗に因つて今迄人毎に勸めて居つたことが決して間違つては居なかつたと云ふことを益深く信ずると共に今後も亦大に勸めて小さな幼稚園の設立を促したいと思つて居る次第であります。元來幼稚園は通ふ子供の小さいと云ふことのために通學區域や送り迎へや、さては教育其ものゝ案配、組織など到底、多數の被教育者を同一の箇所に集めるとの困難と不都合とを持つものでありますから二百人三百人の子供を收容する大幼稚園は本來の性質上、出來ない譯であります。然れば四五十人程度の小さい幼稚園が所々に出來ることは最も望ましいことであります。或る教育政治家は「幼稚園教育を盛んならしむる方法は之を國民義務教育の系統中に入れることだ」と說いて居ましたが、是は目下の所迚も六ヶ敷いことで行はれ可くもありませんが之に反して私立幼稚園設立の奬勵は決して困難でないと思ひます。爲政者の一考を煩はしたい

と思ひます。

私立幼稚園の最も容易なる經營方法は教育者の副業として家庭的に組織することであります。今日の教育者は主人の俸給丈で一家を支へて行くことは中々困難です。腕のある人は皆夫々相當の內職をして居りますが、特別の才能のないものには是は出來ません。夫れで私の考へたのは教育者の家族が老人も若い人も子供も一致して助け合ふことの出來ることで然も教育者の自覺と品位とを失はないので、主人の收入を援け、安んじて教育事業に從ひ得るものはないかと云ふことでした。此考の結局する所が「理想的の小幼稚園」と一致して私立幼稚園の經營と云ふことになつた譯であります。斯樣な譯で私の幼稚園は始めから充分な資本も投ぜず、保姆も立派な人を賴まず、出來る丈間に合はす主義で經營して參りました。併しながら勿論教育事業は營利的の仕事ではありません。幼稚園經營に因つて大に儲け樣など丶云ふ考へは毛頭ありません。唯之に因つて教育者の家族が如何にして主人と共に教育的社會奉仕を爲し得るかと云ふことを實現して見たいと思つたこと丶、一つには幾分でも働くと云ふことに因つて教育者の生活を向上させ安泰ならしむることが出來るかを實驗して見たいと思つた迄であります。過去十ケ年の經驗は充分此希望を滿足させました。幼稚園の經營が教育者の家族に因つて立派に副業的に經營され得ることを今は確信する樣になりました。此實驗をするに都合の好かつたことは私の家內が小學校本科正教員の資格のあることでした。そこで私は家內には少し忙しいので氣の毒でしたが、思ひ切つて始

めることにしました。そして此確信を得る迄の經驗を爲ました。併し茲に最も困難なことが二つありました。一つは私が此幼稚園經營の始めに當つて本職を拋つたことでした。是は私の家内が過去に於て幼稚園の經驗がなかつたと云ふことゝ、私が自分で保姆養生を一事業と爲やうとした爲めに止むを得ませんでしたが併し之が爲めに經濟的に大打擊を受けて大に困難なことになりました。今一つの困難は私が幼稚園經營後に生れた二人の子供でした。私が幼稚園を始める最初の隱れたる動機は自分の子供に自由な廣い遊び場を與へて、梅雨時分の外出の出來ない頃にも屋内の遊戯室を利用することに因つて充分體育を進めることが出來ると思つたことでしたが、實際の結果は一人を失ひ一人をかよはき神系質な子供にして居ります。尤も是とても決して當初の私の考へを裏切つたと云ふ程の譯ではありませんが、將來同樣な計劃を爲さる人々には一考の必要あることゝ存じます。併し御心配なさいますな。私が二人の子供に失敗したのは、決して私の計劃が根本から惡かつたのでありません。唯私が幼稚園の建物を間取りするときに家族の病室とか產室とかに就いて適當な設備をしなかつたのが惡かつたのでした。家族の居室は兎も角も、家族の病氣と產婦嬰兒の寢室とに就いては充分幼稚園の喧噪から免かるゝ樣適當な位置を採り、之に便所と庭とを適宜に配す可きでしたが、私は是等の設備を怠つた爲めに前申した通り一人の子供を失ひ一人の子供を神系質な弱い子供にしなければならぬ樣になりました。

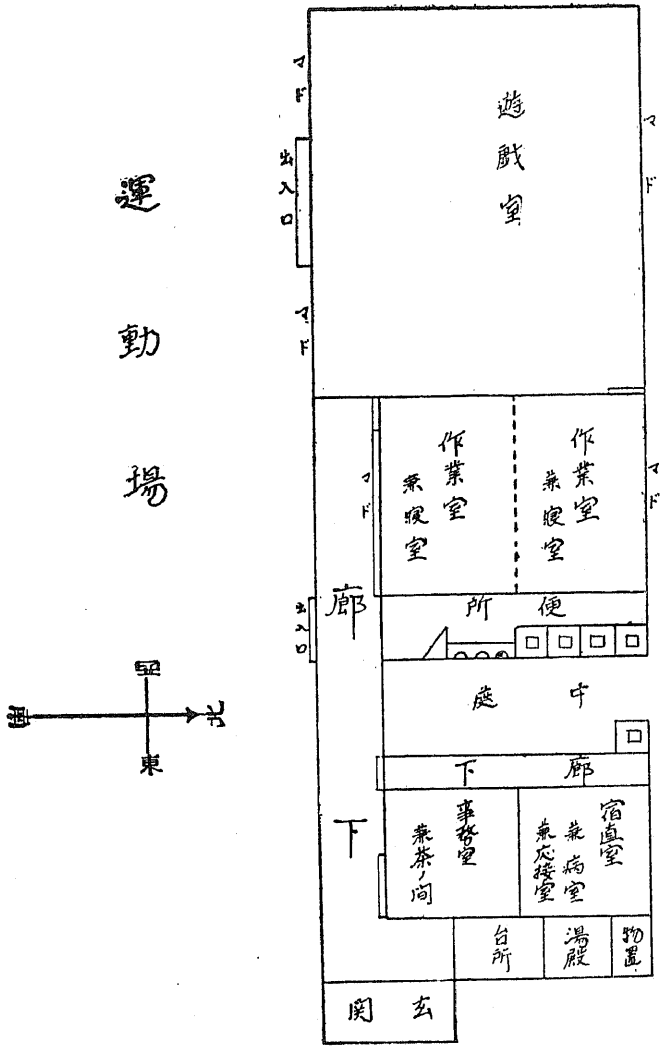
（其詳細な事情は餘りに横道に入りますから茲には略すことに致しますが）

然れば右に申述べた樣な二つの困難さへなければ小さい幼稚園は敎育者の家族に因つて充分經營され得るものであることを斷言することが出來ますし、又斯くすることに因つて理想的な幼稚園は最も經濟的に實現することが出來ると思ひます。若し、此方法に因らないで單獨に幼稚園だけを實現し樣とすると最初の設備費も、以後の經常費も中々多分に要するもので、到底私人の經營に堪え得るものではありません。敎育事業は悉く公立でなければならぬ理由はないのみならず、私學を奬勵し、私人の敎育を勵ますのは、國家敎育の最も經濟的方法であります。私は幼稚園を盛んにする方法は此方法を措いて外にないと思つて居ります。天下數萬の敎育者！　何うか此方法に因つて、全家族を擧げて敎育の上に盡されると共に敎育者不遇の嘆を少しでも緩和する利益を得られんことを、切に希望する次第であります。

然らは最も簡易なる幼稚園は如何なる設備を要すればよいか、其建物は如何、其備品は如何に、今私の經驗に因つて最も簡略にして然も充分敎育的効果を上げ得可き程度のものを組織して見ませう。御參考となつて私立幼稚園の設立を援けることが出來れば幸の至りです。

一、大體の組織、主任保姆は一人少くも小學校本科正敎員の資格あるもの（設立者の夫人が之に當るとして）之に高等女學校卒業程度の助手一兩人（成る可く家族の中にて間に合す）幼兒の收容人數は基本計算を四十人とし漸次增加するものとして六十人迄は收容するものとす。若し六十人を超して收容せんとするときは此設備は根本より改むることを要するでせう。

二、建物、建物の中最も廣きを要するは遊戯室である。現在目白幼稚園は遊戯室を五間四方卽ち二十五坪にして居るが少し窮屈を感じて居る。之は少くも今五坪を增して三十坪とする方がよいと思ふ。卽ち五間に六間にするのが最も善いと思ふ。次に作業室は廣くなくとも著付きたる部屋を要する。之は四



十人乃至六十人の子供の爲めには少くも二つにしてほしい。一つは大きい子供の爲めに、一つは小さい子供の爲めに、部屋の廣さは五坪乃至六坪あれば足りる。疊敷で座しても腰掛ても仕事することの出來る樣にしてほしい。次に便所は大便所も男の小便所も三人の子供が同時に用便し得る丈の數を置きたい。手洗所も相當して、玄關は下駄置場を兼ねて可なり廣い場所を要する。少くも四坪を要するでせう。之に家族の住室を併せて合計六十坪位のものは少くも要する譯ですが、我慢をすれば一割位は狹くしても出來ないことはありますまい。今理想的な自由な地面が得られるとして以上の諸室を配置した平面圖を物して見れば次の樣なものが出來ます。

右の建物丈で五十九坪餘を要しますから、之に尙事務室に戸棚を增したり何かすると何うしても六十坪となりますが、止むを得なければ、一割位を減じて見ても宜しいと思ひます。屋外の運動場は百坪は少くも要ります。併せて地坪は二百坪あれば宜しいでせう。尤も庭は多い程結構ですから出來る丈廣くとつて畑でも造ることが適當です。

二備品、是には什器に屬するもの、機械、標本、玩具手、工材料等ありますが、今手當り次第心付き次第、に列記して行つて見ませう。代價は土地の狀況と時期とに因つて色々變化するでせうが、今假りに、フレーベル館發行十五年度保育用品目錄に依つて上げました、愈注文する段になつたらば更に精査を要するでせうが、表記の代價より安くなるとも高くなることは先づ少いと思ひます。當該目錄にない

ものは記者の見込を上げました。

イ、幼兒用卓子　作業室で用ゆるもので、二尺に六尺のものが一番便利ですが之を更に二つに切つて二尺に三尺にして置くと片附けるに尙便利です。作業室を家族の寢室に利用するとしては更に折たゝみ式の茶ぶ臺を使つてもよいと思ひます。一脚四人用十脚を用意すれば充分で、代價は一脚十圓です。十脚の百圓でせう。

ロ、幼兒用腰掛、作業室は疊敷で座して、することにして腰掛を用ゐない方がよいでせう。腰掛が要るとすれは遊戯室の周圍に置くものです。之は成る可く遊戯室の周圍、適宜の場所に造り付けにこしらへるが一番經濟です。其他には移動用として倚り掛りのない極簡單なもの兩三脚あつたら宜しいでせう一脚十圓のもので充分です。

ハ、黑板、黑板は作業室用も遊戯室の壁間に置くものも共に造り付けにこしらへるが經便で經濟でせう、是は少し金を掛けても充分なものを設備して置くことが結極利益です、作業室に一間分二つ遊戯室に同四つとして、一間分が二十圓、全體で百二十圓を要しませう。

ニ、戸棚、物品整理用として戸棚、辨當棚、三角棚等が要ります。

戸棚は百圓、辨當棚は十圓、三角棚は十圓、で成る可く簡單に造ることにしませう。

ホ、ピアノ、之は贅澤を云つては限りがありません。强いてなくてもですが、都會地なら成る可くあ

る方が宜しいし、片田舎なら當分はなくても宜しいでせう。買ふとすれば和製の最も安いのを買ふのが最も經濟的です、代價は腰掛、被覆等を共にして五百圓あれば充分です。

ヘ、オルガン、之は何うしても必要です。ピアノがあつても之は尙ある方がよいと思ひます。大してよいものでなくとも、百圓程度のもので宜しいでせう。

ト、フレーベル式恩物、之は充分に設備したら大變ですが、然のみは爲なくともと思ひます。私の從來の經驗に因つて最簡に略して見ると次の樣になります。

改良積木第三、	一組	一組一圓十錢	十組	十一圓
色板第三、	一組	七十錢	十組	七圓
箸	一箱	七十錢	十函	七圓
環	一組	八十錢	十組	八圓
紐	一組	二十錢	十組	二圓
粒	一函	二十五錢	十函	二圓五十錢

右の數種を交り〳〵使はせれば夫れで充分です。恩物に多大の資金を最初から固定させることは考へるものです。私の考へでは之丈あれば充分子供に恩物的教育の効果を與へ得ると思つて居ます。

チ、モンテッソリー式恩物、此恩物は一と通り備へ付けて置いて幼兒の發達檢査用に使ふことは面白

いと思ひますが、日常に使用することは要りません。最初の經濟的儉約的施設としてはマアなくてもよいでせう。

リ、自由玩具、玩具は數限りなくあるものゝ幼稚園に常備して幼兒に自由に用ゐさせるものとしては左記の數種が是非必要と思ひます。

ヒル氏積木	半組入	二十五圓
劍玉	五號	七十五錢
恩物獨樂	五人分	一圓二十五錢
三角お手玉	五人分	一圓七十錢
計數器	二個	四圓六十錢
七巧板	一號五組	五圓七十五錢
綾掛枠	五組	二圓五十錢
珠盤刺	五組	三圓
球入競爭	二個	二圓
ゴム球	五個徑五寸	二圓五十錢
砂場用具	五組	四圓五十錢

細綱　二本　徑五分　長一丈　木綿紐　五十錢
太綱　一本　徑一寸五分　長二丈　木綿紐　五圓
兵隊遊用玩具　適宜　五圓
飯事道具　適宜　五圓
交通遊用玩具　適宜　五圓

以上の外金に厭目がなければ幾らでも備へ付け得るものはありますが然程迄はと略しました。

又、運動具、室内用として鴨居又は梁に引き掛け得るブランコ數個と滑り臺一個とあれば充分です。

室内用ブランコ　五個　二圓五十錢
室内用滑り臺　一個　二十五圓
庭園用ブランコ　四人分　百圓
デスリッヂ遊動木　以下庭園用　五十圓
舟形木馬シーソー　十五圓
三輪車　四臺　三十圓
押し車　一個　三圓八十錢
引き箱　一個　二圓

バスチツトボール　十圓

ル、標本及及掛圖

動植物標本　五十種　五〇圓

昔話掛圖　一〇〇圓

歴史地理掛圖　一〇〇圓

ヲ、事務用什器、之は成る可く簡單に間に合すとして机椅子、戸棚等を併せて百圓位で充分間に合ふでせう。

以上イよりルに至る迄を合計して見ると左の通りになります

イ、卓子　一〇〇圓

ロ、腰掛　二〇圓

ハ、黒板　一二〇圓

ニ、戸棚類　一二〇圓

ホ、ピアノ　五〇〇圓

ヘ、オルガン　一〇〇圓

ト、フレーベル式恩物　三七圓五十錢

チ、モンテッソリー　七四圓五〇錢
リ、自由玩具　二三八圓三〇錢
ヌ、運動具　二五〇圓
ル、標本及掛圖　一五六〇圓三〇錢
合計

右の通りピアノをよしにしても一千圓を要します。是位は何うしても施設せなくてはなりますまい。併し此中の或ものを自作するとすれば、例へば掛圖類の如き、棚類の如き玩具類の如き、少し器用の人ならば隨分自作することが出來ますから心掛けてこしらへるとすれば設備費一千圓は半額でも濟むでせう。併し六十坪の建物は安くも坪七八十圓を要するでせうから、少くも五千圓の金がなくては何んな小さい幼稚園も出來ない譯ですが、若し建物を賃借することが出來れば案外容易に計劃することが出來ます。マア、さし當り適當な建物を賃借するとして經常費を概算して見ませう。先づ幼稚四十人、一人一ケ月保育料參圓として一ケ月收入百二十圓一ケ年千四百四十圓となります。其支出方面は左の通りです

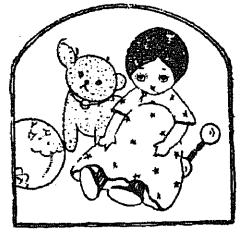
家屋賃借料	一ケ月五〇圓	年額	六〇〇圓
保姆俸給	二人分ニテ五〇圓	同	六〇〇、〇〇
備品費	月額十五圓	同	一八〇、〇〇

事務費　月額五圓　年額　六〇、〇〇

計　一四四〇、〇〇

右の計算には消耗玩具費や手工材料費や三大節等に、幼兒に給與する菓子料並に冬期間特別に使用する暖房費等の計算がありませんが、是等は土地の狀況に因り如何程にも經濟的に出來るもので、一定に計算することは困難であるし、且其費用は保育料外に實費を徵收するのが便利ですから茲には計上しませんでした。私の幼稚園では保育料外に唯今では一圓宛徵收して是等の費用を支辨して居ります。

以上の計算では保姆は二人して一ヶ月僅に五十圓の俸給しか得られませんが家賃を出さずに是丈の收入があるとしたら、先づ複業としては滿足するより仕方がありますまい。若し幸にして幼兒が六十人も入れば相當の收入を得ることになるでせう。少し辛棒すれば此狀態になることは間違ありませんから、敎育者の生活を保證する方法として最良のものと思ひます。



こども

よしこ

一

信子さんは歸ろうとしていらつしやるお母様にだきついてワアワア泣き出しました。お母様は一生懸命に

「ねエ先生、信子はえらいんですよ、このお正月で六つになりましたからババだのママだのつていふとおかしいからお父様お母様といひませうねつて自分から云ひ出しましたの、ねエ、そんなにえらくなつたのにどうして泣くの、ええ」信子さんはこんなにほめられてもまだまだ泣いてゐました。ほんとうにどうしたんでせうねかう云つて困つていらつしやるお母さんに、泣きじやつくりしながらもせいのびして、鋏　と信子さんが云つたので

「あ、ごめんなさいね〳〵、先生かうなんでございますよ、信子のはざみのふだがとれたので私が家に持つて歸つてつけてあげませうつて持つて歸つたまんま忘れてしまひましたの、それでお母さんが先生にあやまつてあげるお約束だつたのにこれもすつかり忘れてしまひましたんですよ、さあ行きませう」

お母様は、わざ〳〵コートをぬいで信子さんをつれて大野先生にあやまりにいらつしやいました。信子さんはもう泣いて居ませんでした。

二

晴子さんはお友達がみんな歸つてしまつてから先生のお室にはいつて一生懸命に繪をかいてゐました。

「これね、西洋人なの」

出來上つたお孃さんの繪を丁度來ていらつしやつた倉橋先生にお見せしましたら

「なるほど、たしかに日本人ぢやないなあ」

先生はかう云つて晴子さんの顏をヂッと見つめていらつしやいます。

晴子さんのかいたお孃さんの眼は青うございました。

「晴子がね、この間からどうして西洋人の眼は青いんだろうつてそればつかり云つて居ましたの青いものでも食べたからかしらなんて云つて居ましたつけ」

晴子さんのお母さまがかう云つていらつしやる時に、

「海ばつかり見て居るからでせうね」

晴子さんは無造作にかう云ひながら片足でピョン〳〵はねて行つてしまひました。

そこに居合せた皆は思はず顏を見あはせてしまひました。

三

及川先生の室に用があつて行きました。

陽ちやんがぢやまだ〳〵といふので氣がついて見るとあや子さんがに寫眞をとつてもらふところなのです。床上積木をいゝ具合に幾つか重ねて出來た寫眞機をのぞきながら陽ちやんはすまして立つ

て居るあや子さんをうつしました。

寫眞がすぐ出來上りました。大きい細長い方の積木に、白い白ぼくで、人の形がかいてありました。

四

みんなの家から郵便はがきを一枚づつ持つて來てもらひました。それをあつめて幼稚園の郵便局の窓から顯子さんと、和惠さんとが賣りました。そのはがきに皆で繪をかいたのでお友達のところに出しませうねつて云ひましたら

「私泰子さんに出すの」

「僕壯一郎さんのところにかいて」

皆の手が一時に私の前に出ましたので順々に待つて居てもらつてそれぞれ住所と宛名をかいて居りました。

「私ね堀先生のところにかいて頂だいよ」

晴子さんが云ひましたので上戸塚五七五とかいてゐましたら宮城あい子さんが

「それぢやわたし倉橋先生に出すわ」

さうさう倉橋先生が幼稚園にいらつしやる時に入園した組だつたけ、などゝ思ひながら中野千光前とかきました。

お天氣のいゝ日だつたので皆自分のかいたはがきを持つてゾロ〳〵と門の前のポストに入れに行きました。せいのびしてポストにつかまりながら一ときにはがきを入れて居る樣子を通りがゝりの小父さんがニコ〳〵して立どまつて見て居りました。

五

大野先生の机の上に見なれない一寸四方位の紙に、「この札をもつて三十日以内に右の所に出頭すれば代金を拂ふ」といふ意味の書付がありました。

これ何つて聞きましたら大野先生は、笑つて〳〵なか〳〵云つて下さいませんでした。

小使の小母さんの室のわきに鼠の死んだのが居たと見えてその日は朝から小さい人達の間で鼠々といふことを方々で云つて居ました。

その中巖(イワヲ)さんが

「交番に持つて行くとお金をくれる」

と云つたのをきいた土方敬太さんが、その死んだ鼠をまあどうしてさげて行つたことでせう一人でさつさと裏門から本郷座のそばの交番に持つて行きました。

おまはりさんはどんな顔してこの可愛いらしいお使にお話をしたことでせう。忠實なおまはりさんは鼠をうけとつてさつきの書付を、敬太さんに渡したのでさつさと幼稚園に歸つて來たのだそうでございます。

お雛祭り

大阪市露天幼稚園
松川ヨネ

花子さんと千代子さんと敏子さんとは大の仲よしでありまして、毎日幼稚園から歸つて參りますと、いつでも一緒になつて樂しく色々のお遊びをしてゐます。

今日も三人が幼稚園から歸つてから花子さんのおうちの門口で、ゴム毬をついて遊んでゐますと急に空の方でブーンといふ大きな音が聞え出して來ましたので、皆は言ひ合せたやうに毬つく手をやめて、ちよいと上の方を見ますと、これはどうした事でせう？　それは〳〵美しい蝶型の飛行機が、二三人のかわゆらしい女の子供達を乘せて、ずん〳〵下へ下りて來るのです。

花子さんや千代子さんや敏子さんはビックリして「アレッ」「アレッ」「アレッ」と叫びながら手をうち足をふみならして騒ぎ廻りました。そして思はず「飛行機萬歳」「飛行機萬歳」「飛行機萬歳」と言ひますと、その拍子に上からバラバラバラッと何か小さなものが落ちて參りましたので、「オヤッ」と叫びながらその方へ急いで駈つて行つて拾ひ上げて見ますと、それは小さなかわゆらしい桃のお花でありまして、その中から一通のお手紙が出てまゐりました。

一同はビックリしてそれを花子さんのお母様に讀んでいたゞきますと。

明日は三月三日のおひなまつりの日です。私達の世界では明日午后一時からおひなまつりをしてお遊びを致しますから皆様どうかお遊びにお越し下さい

三月二日　　天國より

下界のおとめ子様達へ

と書いてありました。

これを聞いた三人は大喜びで、「あゝうれしいな〳〵」「私早く天國へ行きたいわ」「あゝうれしいな〳〵」と、皆が小躍りをして喜びました。

すると花子さんのお母様が「ホ……ッ」とお笑ひになりまして、「皆さんどうして天國へいらつしやるの」と言はれて一同「ハッ」と思つて互ひに顔と顔とを見合せてだまりこんでしまひました。

然し又やゝしばらくすると花子さんが「でも私行きたいわ〳〵」と言ひ出しましたので、皆も同じやうに「全くね」「行きたいね」「行きたいわ」と、又々わい〳〵騒ぎ出しました。

すると今迄花子さんのおそばで默つて聞いてゐましたゴム毬が、コロコロコロッと皆の前へころげ出て「皆様そのお役は私が致しませう」と申し

ましたから、一同は餘りの意外さに「えッ！　毬子さん、あなたが私達をあの天國へ連れて行つて下さるの」「ありがたう〳〵」「でも大丈夫？」「ほんとうなの」とかわる〴〵皆が尋ねますのでゴム毬は「ええ御心配は御無用でございます」と全く眞顏になつて申しますから皆もそれでやつと一安心をして「それぢやお願ひ申しますね毬子さん」「どうぞよろしくね毬子さん」と、その日はそれで皆が別れ自分〳〵のおうちへ歸つてしまひました。

翌朝になりますと三人は早くから目をさまして急いで床の中から飛び出して早くから花子さんのおうちへ集つて大騒きです。

するとおひる前頃になつてゴム毬が「ぢや皆さんこれからそろ〳〵出掛けませうか」といふなりすぐに一つ大きな息を吸ひこみましたので、見る〳〵うちにゴム毬は大きくなつて「さあ皆さんどうか私のおせなにのつて下さい、そしておつこちないやうにしつかりと私のおせなにつかまつてゐて下さいよ」と申しますから三人はうれしいやらおそろしいやらでビク〳〵しながらとう〳〵ゴム毬のおせなの上に參りました。

そしてお父樣方やお母樣方に「さようなら」「さようなら」とごあいさつを致しますとゴム毬は、大きなお腹に力を一ぱいこめて「一、二、三」とかけ聲勇ましくポンと強く地上を一蹴りけりたてましたので、三人は餘りの大音と大響にビックリして「アッ」と叫んで目をつぶつてゴム毬のおせなにしがみついたきり、そのあとは全く何も知りませんでした。

するとふと耳もとで「皆樣よくいらつしやいました。さあどうぞこちらへ」といふやさしい聲が致しますのでビックリ目を開いて見ますと、そこにはかわゆらしい黄色の蝶が三人を出迎へてゐて

くれましたので、皆はうれしいやらありがたいやらで、全く夢心地のままで蝶の後からついて參りますと、それはきれいな〳〵廣いお庭へ出てまゐりました。

そこには美しいお花やおいしさうな木の實がたくさんになつてゐまして、小鳥は樂しさうにチチチチと囀りながら飛び廻つてゐました。

するとどこからか一人のかわゆらしいゐまつおとめが出て參りまして、「さあ皆樣どうぞこちらへ」と申しますから三人はたゞ「ハッ」と答へたままでオヅ〳〵しながらついて參りますとやがて立派な御殿がありまして三人はその大奥へと案内をされました。

するとどこからともなくよい音樂が高く低く弱く強くゆるくせわしく流れきこえてきますので、三人はとう〳〵その妙なる音樂に醉はされてしまひまして、ふと氣がつきました時には美しい桃園の眞中に立つてゐました。

美しい緋のまん幕は庭園の四方に張りめぐらされてありまして、その正面には大きな立派な舞臺が出來てありました。

觀覽席は早や來客で滿員の有樣でありましたので三人はいそいでその隅の方の席につきました。

すると間もなく柏手と共に薄紅の美しい薄絹の幕が靜かに開かれまして、美しいお姫樣がその正面にニコとして座つていらつしやいましたから觀衆は一時にドッと柏手をして喜びますと、お姫樣は靜にお立ちになつて、今日のおひな祭りについてのごあいさつをなさいました。そして大變御滿足げに見えました。

それから次第〳〵に色々の面白い餘興が始まり出しましたので一同は我を忘れてやんやんやんとはやしたてました。

一、開會の辭　お姫樣

二、餘興

(1) 胡蝶のダンス

(2) 天女の舞

(3) 小鳥の舞踊

(4) お客樣の飛び入り隨意

(5) 福引

三、宴遊會

(1) 茶話會

(2) 摸擬店

(3) 紀念撮影

四、閉會　以上

面白かつた餘興が一段落をつげますとこんどは廣いお庭で立派な宴會がありました。

皆は珍しい天國の御馳走に舌鼓をうつて色々のおみやげをたくさん頂戴いたしました。

(1) 桃の花のお餅

(2) 桃の葉の卷ずし

(3) 蜜のお酒

そして夕方頃に皆はそれ〴〵胡蝶のおせなにのせてもらつて天國を辭しました。

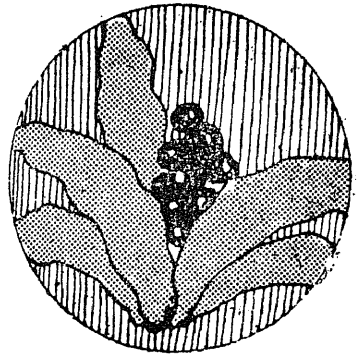
「お姫樣ありがたうございました」「さようなら」「さようなら」「ごきげんよう」「また來年もいらつしやいよ」「さようなら」と。

名殘りの聲が次第に遠く弱くかすかになつたかと思ふ間に早や花子さんも千代子さんも敏子さんもそれ〴〵自分のおうちの前へ送られてゐましたとさ。（終り）

きびがら細工（其五）

東京女高師訓導　山形　寛

六、彫刻的意味を加味した教材（續き）

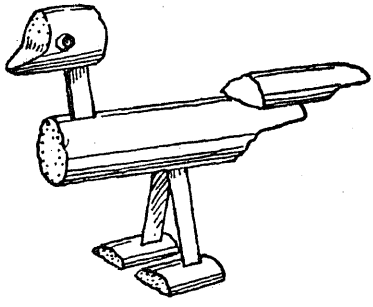


八、あひる

(1) 太いきびがらを長さ六センチ位に切り、更に一端から二センチ位の所に、直徑の約半分位まで、斜の切込をつけ、その部分を縦に割つてとるこれは胴になるのである。

(2) 同じ太さのきびがらを、長き二センチ位に切り、一端から半センチ位の所に直徑の三分の二弱の所までの切込をつけ、その部分を又小口から斜に切り取り、更に側方からも料に少しく切りと

第十九圖



あひる

り、然る後指で壓して第十九圖に示す如き頭部の形を作る。

(3) 同じ太さの、或は少し細いきびがらを、長さ二センチ半位に切り、之を縦に二つ割にし、更に一端を少しく削るか指で壓すかして、尾の形を作る。

(4) やゝ幅の廣い皮で、頭と胴とを圖の如く結合し、更に二本の肢をつけ、尾をつけて、大體の形を作る。

(5) 細いきびがらを長さ約一センチに切り、之を二つ割にしたものを脚の先端につけて、立つ樣にする。

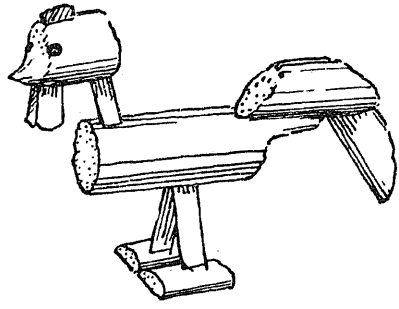
(6) 眼を畫き込み、全體の姿勢や歪を修正して仕上げる。

九、雞

(1) 太いきびがらを長さ六センチ位に切つたもので、胴を作る。その工作法は「あひる」の胴の工作に準ずればよい。

(2) 太いきびがらを長さ約センチに切り、更に一端から半センチ位の所に斜の切込をつけて、割りとり、指頭で押して頭の形の大體を作つてから、第二十圖に示すが如く、皮で作つたとさかをさして、頭を作る。

第廿圖



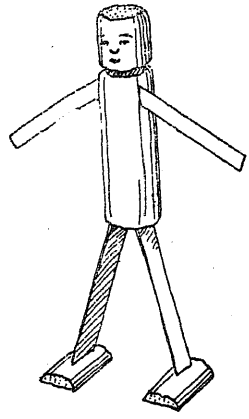
にはとり

(3) やゝ細いきびがらで、尾を作るために、圖に示すが如き兩端を斜に切つた材料二個を作る。

(4) やゝ太く割つた皮で頭と胴とを結合し、更にあまり太くない皮で尾を結合する。而して尾を結合する場合には、豫め結合する位置に當てゝ見て、接合部の形を、しつくり合ふ樣に、或は削りとるなり、或は壓し窪めるなりして修正してから結合するがよい。

(5) 「あひる」の工作法に準じて肢をつけ、眼を畫き入れ、全體の形を修正して仕上げる。

第廿一圖



ひ と

一〇、人(其一)

(1) 太いきびがらを長さ約センチ五と二センチとに切る。前者は人の胴、後者は頭になるのである。

(2) 前記二本のきびがらの兩端の稜を指頭で壓して丸くし、然る後これを第二十一圖の如く結合する。

(3) やゝ幅廣く剝がした皮を、長さ約七センチに切つたもの四本を作り、之を前工程で作つた胴に刺して、第二十一圖に示す如く手と足とを作る。この時手と胴との角度と二本の足の開き工合に依つて、作り上げたものゝ持つ氣分の上に大なる差があるから、その邊は工夫せしめる要がある。然し何度も刺しなほしては接合部がゆるくなつてしまふから接合する前に考へて成るべく一度刺したらやり返さぬ樣にせしめるがよい。又足の開き工合は出來上つたものの安定にも關係することを注意するがよい。

(4) 手と足の先端を適度に切りつめて形を整へる。

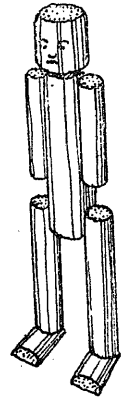
(5) 細いきびがらを、長さ約二センチに切り、之を縦に二つ割にしたものを足の先端につける。これは丸いまゝのものを二本作つて用ひてもよい

(6) 顔を畫き込んで仕上げる。

一一、人(其二)

(1) 前課人(其一)の工作法に準じて、太いきびがらで胴と頭とを作る。

第廿二圖



ひと

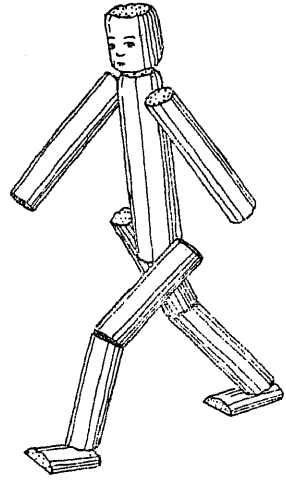
(2) 最も細いきびがらを、長さ約三センチに切つたもの二本と、長さ五センチ弱に切つたもの二本とを作る。前者は手、後者は足になる材料である。

(3) 胴と頭とを結合し、更にこれに第二十二圖に示す如く手と足とを結合する。この時手は圖の如くしないで胴に直角につけたり、又前課の如き角度につけたりしてもよい。

(4) 細いきびがらを、長さ約二センチに切つたものを縦に二つ割にしたものを足の先端につける

(5) 顔を畫き込み、全體の形を修正して仕上げる。

第廿三圖



歩む人

一二、歩む人

(1) 前課及び前々課の工作に準じて、人の頭と胴と手の材料を作る。

(2) 手と同じ位の細さのきびがらを長さ約六セ

ンチに切つたもの二本を作り、更に之を中央から少しく斜に切つて二分する。これは足になるものである。

(3) 頭と胴とを結合し、更に胴に二本の手を圖に示す如く結合する。

(4) 前課の工作に準じて足の先端につける材料を作り、圖に示すが如く足を曲げた形に各の足を作る。この時左の足と右の足とは、足先をつける角度を變へなければならない。

(5) 第三工程で作つたものに、第四工程で作つたものを結合し、第二十三圖に示す如き形となる

(6) 顔を畫き、且つ立てて見て、平均を保つてよく立つ樣に各部の形を修正して仕上げる。

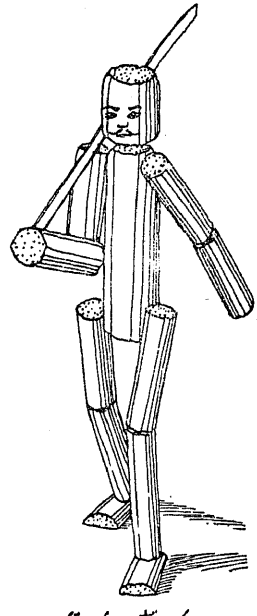
本工作に於て胴と手、胴と足の結合にはやゝ太い籤を用ふるがよい。この接合にきびがらの皮を用ふる時は、結合後全體の姿勢を整へる上に不便である。

本工作に於ける人の姿勢は必ずしも圖に示すが如くしないで、兒童の任意な姿勢に作らしめるもよい。

一三、軍人

(1) 前課「歩む人」の工作に準じて、頭、胴、足の各部を作り、前課とほぼ同じ姿勢に之を結合する。

第廿四圖



ぐんぢん

(2) 手は細いきびがらを長さ約五センチに切り之を中央から二等分したものを、第二十四圖に示す如く結合してから、更に之を胴に結合する。

(3) きびがらの皮を、圖に示すが如く右手に結合して銃をかついでゐる形を作る。

(4) 顔を畫き込み、全體の姿勢をなほして安定に立つやうにして仕上げる。

本課の工作に於ては、頭を作つたのよりも更に太いきびがらを短く切つたもので、帽子を作つてかぶせると一層面白くなる。

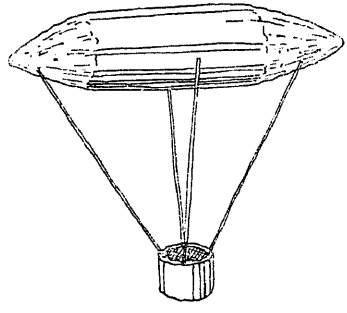
人其一、人其二、歩む人、軍人の四課は、順に少しづゝ形を變へ程度を高めて行つたのであるがこれ等を少しづゝ變化させて行けば、種々の程度に於て、種々の姿勢の人を作ることが出來る。故に教授の際は種々工夫させて見るがよい。

一四、飛行船

(1) 最も太いきびがらを、長さ六センチ位に切り、その兩端をよく切れるナイフで削つて、第二十五圖に示す如き飛行機の氣嚢部を作る。この兩端のとがつた部分の工作は、單にナイフで削つただけで仕上げてもよいが、又大體を削つてから、仕上げは指頭で壓して形を整へてもよい。

(2) 中位の太さのきびがらを、長さ一センチ弱に切り、一方の切口の中央を少し抉りとつて乘る所の部分を作る。

第廿五圖



飛行船

(3) 細い籤が細く割つたきびがらの皮かで、第二十五圖に示す如く氣嚢部と乘る所の部分とを結合して仕上げる、この結合に用ひる籤又は皮の數

は必ずしも圖の如くしないで、もつと多くしてもよい。但し結合に用ふる籤又は皮は氣嚢の胴の中央に串刺にしては拙いからなるべく端に刺す樣にするがよい、

本工作は甚だ簡單ではあるが、刄物が切れないと綺麗には仕上がらない。

一五、ボート

(1) 太いきびがらを、長さ約八センチに切り、

第廿六圖

ボート

然る後にボートの先端の左右から斜面に削つて、舳の部分を作る。

(2) 第二十六圖に示す如く中央の座席其他のある部分を、よく切れるナイフの先端で抉りとる。この時一氣にあまり多くの部分を削りとらうとすると、かへつて切り過ぎたり、他の部分を損じたりすることがあるから注意を要する。

以上が出來たならば皮で座席を作つたり、舵をつけたりさせると一層面白い。

本工作は甚だ簡單ではあるが手際よく作るには相當の練習を積んでからでないと困難である。

一六、汽罐

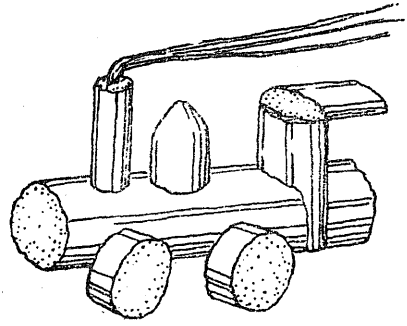
(1) 直徑約一、五センチのきびがらを、長さ約四、〇センチに切る。これは汽罐部になるものである。

(2) 同じ太さのきびがらを、長さ三センチ强に切り、更に直徑の約三分の一位を縱に切り去り、

且つ汽罐部に取りつけよくするため、反對の側の下端約一、五センチを削りとる。これは種々の機械のとりつけてある部分になるのである。但しきびがらは機械の模作までは出來ないが）

(3) 同じ太さの材料を、長さ約一五センチに切り、且つ之を縦に二つに切る。これは機械部の屋根になる材料である。

第廿七圖



やぶきき

(4) 更に同じ太さの材料を、長さ約一センチ弱に切る。これは機械部の床に當る部分になる材料である。

(5) 同じ太さの材料を、長さ約半センチに切つたものを四個作る。これは車輪になる材料である而してこの材料の切斷はよく切れるナイフでするがよい。切れない刄物や、鋏などで切つたのでは小口が平に且つ滑に切れなくて拙い。

(6) 直徑一センチ弱のきびがらを、長さ約二センチに切る。これは煙突になるものである。若し細いきびがらのなかつた時には、やゝ太いもので作つてから、壓し縮めて細くするがよい。

(7) 直徑一センチ强のきびがらを、長さ二センチ弱に切り一方の端の角を少しく小刀で削りとり更に指頭で壓して丸味をつける。これは蒸氣のたまる部分になるのである。

(8) 以上の諸材料が出來たならば、之を第二十七圖の如く結合する。然し結合は茲に說明した樣

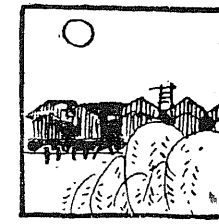
に全部の部分的材料が出來てから一時に結合するもよく、又出來た部分から順に結合して行くもよい。但し後者の結合法に從ふ時にも、車輪の結合は最後にし、且つ四つが歪なく揃つてつく樣にしなければならない。この結合が惡いと、出來上つてからがた〳〵して据りの惡いものとなる。

(9) 全體の歪を修正し、細く割つた皮を圖に示すが如く煙突に刺して煙を表はして仕上げる。

御挨拶

餘白を利用して一寸御挨拶申上げます。私は過日文部省在外研究員として物理化學及敎育研究の爲め滿一箇年間英吉利國に在留することを命ぜられましたので、不日橫濱解纜の北野丸で渡歐の途に上ります。上海・香港を振出しに見て六月中旬英國に到着、それより和・白・獨・佛・瑞・伊等を視察のため旅行し、本年末アメリカに渡る豫定、そして明年三月末に歸國する筈であります。その間實驗室に入つて研究することなく視察を主とし專門の物理化學方面の事項は勿論、幼稚園敎育の有樣を成るべくよく研究したいといふ希望であります。しかし希望だけに終るかも知れませんが、何卒我が國幼稚園敎育の益々發展いたしますやう、皆さんと共に努力したいと存じます。在外中は兎角疎遠勝となるかも知れませんが、皆樣の益々健康にて邦家敎育のため御盡粹相成ることを切望いたします。

大正十五年三月十日　　堀　七　藏



草花の播種に就て

東京女子高師助教諭　大岩金

此頃よく家庭園藝と申します言葉を耳に致しますが、文化の程度の進みますにつれて毎日私共の生活からはなれる事の出來ない住宅におきまして從前と異なり自分の起居する家は設計も自分で都合のよいやうに考慮をめぐらすと云ふやうになつて參りました。又その廣がりである庭園におきましても是迄は所謂庭師なるものに一任致して居りました。又その目的は客を主として專ら觀賞に供したのでありました所が只今では段々とその趣きを異にし自ら種々工夫をこらして設計し且つ之を家族共同して作るといふやうになりました。從つて庭は觀賞に資するばかりでなく、實用方面に大なる貢献をするやうになりました。即ち健康を增進し、趣味の向上をはかり、或は又一方野菜の栽培等經濟的にもなり、やがては一家團欒の樂園と申すやうなことにもなります。

特に最も自然に近く、又自然に親しむことを好む幼兒の保育には、この家庭園藝なるものは、誠に必要なものかと存じます。

もはや寒さも段々とうすらぎまして、庭の草木も芽をふくらまし、彼方此方にも沈丁花、連翹などその美を競つて居ります。私は茲に最も容易に

着手出來まして、而も丁度本月下旬頃から行はれます草花の播種に就て未熟ではありますけれども經驗致しましたものゝ中から少し述べることに致します。

一、床の造り方

イ、苗床の種類

A、圃場利用の場合、苗床は元來移植を必要とする草花、苗の幼稚な間に特に保護を要することの多いもの、本圃と致します花壇が他のもので利用せられてゐる場合等に多く用ひられます。

そして是に溫床と、冷床との別があります

一、溫床とは人工によりまして溫熱を供給する苗床でありまして、多く馬糞、落葉、藁稈などを堆積致しましてその醱酵熱を利用致します。

二、冷床とは專ら天然の溫熱を利用し、少しも人工を以つて溫熱を加へることのないものを云ひます。

1、床は南面した暖かな所を選びまして、東西に長く南北に短かく凡そ三四尺の巾に致しまして兩側から中央に手の屆く範圍の廣さに致します。

2、丁寧に耕して土を微さく碎きます。

3、上層の土は更に篩にかけます。そして播種する種子が小さい程此の土も小さくすることが必要であります。苗床の土は地面から約四五寸高く盛り上げます。(篩の目には五分目、三分目、一分目等種々ありますから適宜にそのいづれかを用ひ、尙篩ひ殘りの荒い所は下の方に入れるなり、又鉢蒔に致します時にその下層に入れてもよろしいのであります)

4、平に均らし、充分に鎭壓致します。

B、鉢及箱利用の場合是は種子の極少量である時は貴重な種子、又は極小さな種子の場合に用ひられてまして是等を利用致します時は小規模でありま

ますから、持運びが容易でありまして、又管理もよく行屆きます。

播種用の鉢は播子蒔鉢と申しまして普通素燒の平燒でそれに圓形や方形があります。そして鉢底には澤山の排子孔があけてあります。

然し特別にこんな鉢を購入しないでも隨時木箱の空いたのを利用すればそれで結構であります。

今蜜柑箱を利用して種子蒔箱を作りませう。

先づ箱の中央を二つに横斷致しまして、次に上の方へは蓋を打付けますれば即座に上等の二つの種子蒔箱が出來上ります。是には特に排水孔をあける必要はありません。粗雜に作られて居りますから充分排水は出來ます。さて是に蒔きますには

1、底の方へ石ごろや瓦のかげなどを入れて排水をよく致します。

2、その上に篩ひ殘りの荒い土を入れます。

3、更に上層に細い土を入れます。又この土は砂に致します場合も砂と土と等分に交ぜ合せる事もあります。いづれに致しましても鐵又は箱の深さの八分目位土を入れて上を明けておきます。それでありませんと、灌水致しまして直に水が鉢外にあふれて仕舞ひます。

4、適當に鎭壓致します事は圃場利用の場合と同樣であります。

二、種子の選擇方法

種子の良否は植物の發育に非常な影響を及ぼすものでありまして、もし不良の種子でありますと折角の丹精も徒勞に歸してしまふやうなことになりますからよく注意しなければなりません。特に種苗店等から種子子を賴入する場合には充分信用のある商店を選ばなければなりません。而して善良な種子とはどんなものであるかと申しますと。

1、純正であること。卽ち希望する植物及品種で

あることであります。

2、清潔であること。色々の雜物の混つてゐないことであります。

3、適當な熱度であつて、而も新鮮なものでなければなりません。

4、重大で、固有の形を持ち、且つ色澤の一樣であることなどであります。

以上は大低肉眼で鑑識することが出來ますから簡單な鑑別方法かと存じます。尙この外に發芽試驗器を用ひまして發芽歩合を試すなどの方法もありますがこゝには略します。

附、善良な種子は大體右のやうな條件を具へたものでありますから、家庭に於て採種致しますにしても一種類宛袋なり器なりをわけまして他と混交しないやうにしておかねばなりません。雜種の出來るのを防ぐには同一種類を一ケ所に集めて栽培するのも一方法であります。

三、播種方法

イ、床播

A、圃場利用の場合苗床の準備が出來まして、よい種子も選べましたら、次には播種するのでありますがその方法は、

1、大粒のものはそのまゝにして、小粒のものは之に砂を混ぜて量を多く致します。

2、そして成可く厚薄のないやうに。

3、大粒のものほど粗く床一面に撒播に致しますのを普通と致します。

然し數種を同じ床に蒔きますには他と混交しないやうに、特に條播に致しますか、それでなければ竹とか、棒切とか、繩とかで區劃をつけておいた方がわかり易くてよろしうございます。そして木札に花名と播種月日とを印して一區劃毎に立て

ゝおきますれば後日の參考になります。

4、覆土は通常種子の二倍半と云はれて居ります

然し之は一概には申されませんで、地質や、乾濕の工合、或は植物の種類によりまして參斟しなければなりません。即ち乾燥地にありましてはかなり澤山覆土しなければなりませんし、又粘土質の所では砂地よりも少なく覆土致すのであります又ロベリアのやうな極細かい種子には特別に覆土は致しませんやうなものもあります。

5、その上をかろくたゝきつけておきます。

B、元來此の場合鉢及箱利用の場合、は貴重な種子、或は發芽困難なもの及種々の試驗等に使用される方法でありますが、家庭的に極めて少量の種子を播種する時に使用致しますにも適した方法であります。でありますから播種の方法等も、殆ど一粒宛床の上に置き、覆土なども最も集約に行はれると云ふやうな場合に行はれます。

ロ、直　播

多くの草花は一度苗床に播種致しまして、一定の大きさになつて始めて本圃に植え出すのでありますが、中に移植を好まぬものとか、極粗放な作り方で別に苗床を使用する必要のない場合に、開花させやうとする場所に直ちに播種する場合の蒔き方を直播と申します。そして播種方法に三通りあります。

A撒播、地上一面に撒布する方法であります。苗床には多くこの法によつて播種致しますけれども直接にはあまり行はれません。即ち種子を多量に要し、發芽後の手入もよく出來ませんし、又空氣の流通なども悪くそのために發芽後の發育狀態も思はしくありませんなど色々の缺點があります。

B條播、一定の距離をおいて淺い溝を作りその溝内丈に播種するのであります。撒播に比べますと空氣の流通の點から申しましても、手入の難易か

ら申しましても遙かに勝つて居ります。しかし尙同じ條間に於る相互の關係はやはり撒播と同樣接近して居りますから、尙發育の工合もよくありませんから、種子も多量に要しましてまだ完全なものとは申されません。

C點播、溝內に尙一定の間隔を於て播種するのであります。之は四圍に相當の間隙をもつて居りますから發育は自由に出來ます。而して點播と申しましても同一穴に數個を入れますのでそこに一緒に發芽致しますと又互に發育を妨げられますからこれは輪狀に播くのであります。又それをさけます爲に一粒宛蒔きます時はたまに發芽しないやうなことでもありますと、その部分は明いてその間隔を亂すやうな事になります。それ故植物の種類や土質、氣候、習慣などによりまして後の二つを適宜に行ふべきであります。

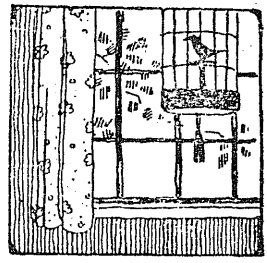
要するに直播を致します主なる注意と致しましては、第一に圃場を充分に耕して原肥を施し、整地致しましてから播種するのでありますが、その方法は稍々多量に種子を蒔いておきまして、發育不良のものを間引きまして始めて目的の數になるやうに用意しておくのであります。

四、播種後の管理

種子が發芽致しますには適當の水分と、溫度とを要しますことは今改めて申し上げます程のことはありませんが是等を如何にして適度に致しますかと申しますに。

イ、圃場利用の場合

1、覆土の後かろく鎭壓しましてから極細目の如露で充分に灌水致します。そして灌水の始めと終りは如露の口を必ず苗床の上から外すやうに注意せねばなりません。大きな雫のために孔を穿つて種子の位置を亂すやうなことがあるからです。



幼兒食物の實際

政　衛

一

昨年十二月號の誌上に、堀先生の幼兒の食物といふ記事を、大層興味をもつて拜見いたしましたが、讀みもて行くうちには、かくも無理解な事實があらうかと驚いてもみたり、また大に同感の點も多うございました。

今日の常識からいつても食物と身體との關係といふ樣の問題は、小學校の生徒でも上級になれば多少の理解があります。まして近頃の女學雜誌や婦人雜誌の何れにも必ずかかる種類の記事がのせられ、學校に於ては家事其他の教科においても。食品の營養價とか消化吸收其他の機能作用の事、尙諸種の方面に涉つての注意もあります。

「ビタミン」ＡＢＣの問題や、「カロリー」の事なども新しい試みとしてはやも宣傳されて久しい今日、私共の女學校時代に比較すると實に今の御婦人は新しい家事上の知識は豐富であらねばなりませぬ從つて理論計りでなく實際上の事もこれに伴ふ御手腕のある事を信じます。

然るに事實は往々矛盾して居る樣のことを伺ひますが、それはどうした事でせう？　他教科はと

にかく、家事科の知識は實際とはなれては其價値はないと思ひます。

乃ち家事に關係した知識理論はたゞに今日の思想上の問題のみで止めることは出來ませぬ、換言すれば實生活實行上の標準であらうと思ひます。話が少々理屈ぽく脱線しかけましたが、前にもどつて幼兒の食物の事など其實際にふれてめい〳〵が思ふままを發表して其實際と理論との接近を計れば面白いと存じますまゝに、左に自宅に於ける食事の實際をのべて經驗ある諸姉の御敎示を抑ぎたく、一週間分を認めることに致しました。

二

宅の家庭は十人家族、内大人六人子供四人（十一歳、九歳、六歳、四歳）家業は醫師何事も醫學的に生理的に衞生的に食事のことなど行はれそうで、其實は全く醫者の不養生とや申べき點が多くまことにおはづかしい次第であります。主人はじめ皆々食物には好惡の差が多い方でございます、加ふるに宅での習慣は嫌なものを強ぬ主義、それは己の慾せざる事を人にも強ぬといふ位の輕い理由で、決して我儘を歡迎する精神ではありませぬつまり我々日常の要求から察しても、馬鹿に甘いもののほしい時やまた辛いもののほしい時や、水ぽいもののよい時や、其時の身體の工合前後の關係たとへば非常に働いたあととか、沈思默考座職の後とかまた病後豫後等にてもちがふ樣に子供等も時により日により同じ樣には參りませぬ。せつかく「おしるこ」を拵へて置いても、學校から歸つての請求は時に蜜柑であつたり鹽せんべいであつたりすることがあります、お餅を燒いても砂糖醬油のよいといふがあれば、醬油だけでのりまきがよいと主張するのもあり、また「あべかは」がよいといふのもあります。

もとより我儘から與へるものを食さぬといふことが明瞭であれば、もとより教養上の別問題ですけれど、それが自然の要求嗜好であれば多くの場合において子供の可愛さからの情から申しても、好まぬものをあたへる氣にはなれぬものであります。

忙しい内にもいろ〳〵面倒してそれ〴〵に滿足をあたへる、その實況は子供心にも感謝の情にあふれ時に「あまりよく賣れてお母さん食べられないわね」とお上手をいつたりまた「僕もそれで結構」と辭退したりして自然に一段落がつきます而して愉快に遊戯にうつります。

三

學校よりの歸宅後また家庭において遊んで居つたにしても子供が喜んで頰ふくらまし團欒の内にその日のありしさま〳〵を報告しつゝ食し合ひつゝ今迄の疲勞を醫するその唯一の時間かと思こゝに至れば自然家人は考へさせられませう、從つて子供本位の家庭における食事の實際は實に面倒なものでありますが、しかし面倒を面倒と思はぬ家庭もあれば何事も面倒に感じて簡單を尊ぶ御家庭もあるそれは一面に主婦の性格にも大に依りませう。

宅では酒と煙草は禁物であります。特に子供の前では酒類はつゝしみます煮物調味の上にも子供のものにはたとへ玉子燒をするにしても「さかしほ」は用ひず牛乳を以てやはらかく、ふくらませて代用品と致ます要するに酒精成分になれしめぬ樣にとの考へで居ります、洋食混りの副食品例へば「カツレツ」「ビーフテキ」「コロッケー」等を與へるにも大人は「ソース」を用ひますが子供はたゞの醬油で間にあはせます、何も習慣にて香辛料は與へずにすむものであります。

左表は朝夕の食事の實際と畫學校及幼稚園に持參せしむる辨當の實際でございますもとより餘裕多い家庭でありませんから日常の生活は極く質素で副食物は常に品種よりも品質に重きを置いて居る方かと思つて居りますが如何？

日時	種類	備考
日曜畫 朝	摺味噌汁。新澤庵。生玉子又は卵豆腐	○生玉子は主として子供の爲に備ふあたたかき白飯にかけて食せしむ時に調理して與ふ卵豆腐玉子一個に卵殼半培の水又はだしを加へて味噌醬油鹽等にて鹽梅してよく攪拌しつゝよき火にて煮程よき時蓋をなし蒸煮にして匙に抄ひつゝ皿に移して與ふ
日曜畫 夕	食パン。紅茶又はコヽナミルク。ジヤム。バタ すきやき（調味に味噌を併せ用ふ）牛肉ロース。やきふ。燒豆腐。ねぎ。こんにやく。香物。	○日曜日の午前は家族一同教會に行くため晝食は留守居のものゝ手を省く精神にてパン食となす例なりバタは大人の爲めにジヤムは主として子供のために備ふ ○四歲六歲の子供にはやきふ豆腐等をとりてあたへ九歲十一歲の子供には大人と同樣肉片をも食せしむ
月曜畫（辨當） 朝	大根里芋味噌汁。香物（からしづけ白菜） 生玉子又は國旗燒 いんげん豆 たらの子	○大根は線切とし里芋はうすく小口切にして用ふ ○國旗燒は玉子一個をやき鍋に落燒にし少量の鹽をかけ皿に移して與ふ ○家庭にて煮たるものは最上ながら經濟上豆屋にて求めし時は必ず自宅にて鹽梅をみて煮なほす ○たら子は燒きて小口切にす

日

夕

魚又はさしみ。香物。すまし汁（菜のささみとかき玉子）

○さしみは夏期は絶對に用ず又チブス流行期にも生身なるが故に用ずして煮魚又は燒魚を用ふ種類は其時の都合にて一定せずたゞ小骨多きものをさく

火曜日

朝　晝（辨當）　夕

わかめ味噌汁。香物。生玉子。かつを味噌

のりまき

なんばうどん。香物（白菜、生姜）

てんぷら及芋素あげ

○わかめなど子供の嗜好に適せぬものを用ふる時には何日もかつを味噌を備ふとになし居れり味噌汁を拵へる前のすり味噌を少量小鍋にとり置きかつを砂糖を加へて煮る

○のりまきはかつをを削り醬油をかけて心にまく尙うすく玉子を燒き線引にして心に入る

○大人向のてんぷらを拵へる際子供のために芋の素あげを混ず素あげはそのまゝ又はさいの目に切りて醬油をかけ或は煮て與ふることもあり

○衣つきのてんぷらはうどんに浸して與ふ宅の子供は皆喜びて食す

水曜日

朝　晝（辨當）　夕

豆腐味噌汁。新澤庵。生玉子

くわゐあめ煮

玉子めし

かき玉子すまし、カツレツ

コロッケー。香物

○くわゐは砂糖の量を多くして煮る

○玉子めしは玉子一個に油あげ半枚を細く切りていりつけやゝ鹽加減を強くして白飯にまぜて與ふ單に玉子のみいりつけて白飯にまぜて與ふることもあり

○カツレツは主として大人用、コロッケーは子供のために二種類とす

○かき玉子のしろみをカツレツ又はコロッケーの衣下に用ふ

木曜日		
朝	晝(辨當)	夕
京菜味噌汁。福神漬 玉子ライス。香物	ヂャムサンド バタ砂糖サンド ミルクサンド	牛肉味噌汁。きやべつ二杯酢 田づくり又は魚。香物

○玉子ライスは玉子一個に卵殼半分に一杯の水を加へ醬油と味の素にて鹽梅したるものに白飯を入れて煑飯茶碗に盛りて型を造り皿に移し匙を添へて與ふ

○食パンの周圍かたき所を切りとりて二分位の厚さに切り一片にジャム又はバタ砂糖或はミルク等をつけ他の一片と合せて輕き壓しをかけ適宜の大さに切りて與ふ

○牛肉の相手は牛蒡を多く用ふ時々葱を用ふることあり

○キャベツは線引となし湯煑して酢砂糖にて味を附く

○たづくりの如きものは發育盛なる子供期に特に必要のよし聞及ぶ

金曜日		
朝	晝(辨當)	夕
大根味噌汁。昆布佃煑。香物。 生玉子。かつを味噌。	さつま芋 玉子やき	すいとん。香物(からしづけ又はわさびづけを添ふ)

魚

○さつま芋はざあつと湯煑し灰汁をとりてやゝ甘く味をつく

○すいとんはメリケン粉を玉子にてこねて別につくり置きたるすまし汁に落入れて煑る相手には葱又は青菜もよろし

土曜日		
朝	晝（辨當）	夕
葱及油揚味噌汁。福神漬。香物 やきのり。かつを味噌		
	あげめし たらの子	
	煮込うどん又は雜煮かけんちん汁 ほうれん草浸物。香物	

○福神漬を白飯にませて福神ライスとし又やきのりにて白飯をまき中身に味噌を入るゝなど子供の隨意とす

○油あげにあつき湯をかけて上油をのぞき細かにきざみて甘からく煮て白飯にまぜる

○たら子は燒きて小口切とし又鹽出しをなして砂糖醬油にて煮るもよろし

○煮込うどんには普通生うどんを用ふ雜煮けんちん何れもあたゝきが主なり

○ほうれん草ののりまきも時によろしからんか

右表中日曜日を省く他の日の晝食は、單に辨當の菜のみをかゝげて家居のものの食品を掲げず、即ち辨當を中心に朝夕の食事の實際をあげ大人の食事との對比が示さるればとの意です。

もとより一週間分の事ですから長い月日にはもつと季節に應じ食品の種類も多いのですけれど一々左迄はと最近の例に止めてありまし、比較的鹽バイものを食せしむるも發育上の必要とこの種の食品を與ふる際は主食品乃ち米飯の量の上に「バランス」がよいので所謂自己流の與へ方をして居る理由でありますあまりに冗長してはとこれにて擱筆致します

長編小説『兼ちやん。』

東京女子高等師範學校教授　岡田美津

（一二）　おみやげ。

原田の老人は双の握りこぶしを背中にまはして、愉快さうに眼に笑を浮べて、

左か右か　當てたら　やらうナ
右か左か　當てたら　やらうナ

といふと

「右！」と兼ちやんが答へた。

原田のお祖父さんは言はれた方の手を擴げて薄紙に包んであるお菓子を一つ見せ、

「お前は賢いな。」と笑ひながら「きつと菓子のある方を當てるから」と言つた。

「あたい、えらいよ。」と兼公は謙遜しておいて、さつさとお菓子を食べ出した。

老人はまた高聲で笑つて、左の手に隠してあつた、お菓子をそツとポッケットに戻した。

「あたい、いつでも當てるネ。」と兼公は尋ねた。
「いつでも當てるな！　どうしてそう當るンだかお祖父ちゃん感心してしまふ。」
「たゞ當るンだよ……これおいしいな。」
「そうか。」
「あゝ。一口食べさせたげやう。」
「いやもう澤山だ。」とお祖さんは嬉しさうな顔をして「祖父ちゃんは一服するとしよう。坊や、祖父ちゃんにお菓子貰つたと母ちゃんに話すンぢやないよ。夕食が食べられないやうになるといけないからな。」
「あたい話しやしないよ。」と兼公は氣を揉んでゐる祖父を安心させやうとするやうに請合つた。
此二人は退潮を見計らつて岩礁の濱へやつて來たので、老人は岩の上に腰を下し孫は石や海草の間をほじくツて小蟹を探してゐるのだつた。もう五六疋は捕へて古いデコボコの空罐に入れてあつた。
「坊や、足を濡らすといけないよ。」と祖父は使ひこなしたパイプに工合よく火を點じてから注意した。

「大丈夫だよ。」と兼公は保證した。實は彼の足はもうその時靴の中でビチャ〳〵になつてゐたのだつたが「やア、こゝにも居らア。」と小蟹をつまみ上げて手のひらに這はせながら「あ、くすぐッたい、まだちいさくッて剪めないンだね。お祖父ちやん手に載せて見たいかい。」

「あ、みたいよ」と老人は孫のお機嫌をとる氣で「あ、ほんとにくすぐッたいね。お前そんなに蟹を取つてどうするつもりなんだ。」と罐の中を指して尋ねた。

「家へもつて歸るの。」

「松濱へかい」

「あ、松濱へ。」

「みんな死んでしまふぞ。」

「どうして。」

「蟹は松濱では生きてゐない。」

「どうして生きてないの。」

「鹹水でなくッちや。」

「ぢや鹹水も持つていく。瓶に入れてもつてけばいゝ。」

老人は頭を振つてゐるので、子供は失望した顔をした。
「松濱へ蟹をもつていつてどうするンだ。」
「どうもしない。」
「そいぢや何故もつてゆくのだ。」
「あたいのにするンぢやないよ。あたい蟹なんかいらない。蟹が大きくなつて床ン中へ這つて來ると怖いもの。清ちやんが蟹欲しがるンだよ。」
「清ちやんて誰だ。」
「ちいさい子だよ。あたいよかもつと小さくツて寢てるンだよ。お父ちやんは死んぢやつて母ちやんが洗濯してるの。」
「うんそうか。それでその清ちやんが蟹を取つて來てくれつていつたのか。」
「始ね猿が欲しいツていつたンだよ。岩磯に猿がゐてね岩に登つたり棧橋だの濱だのをかけ廻つてるかと思つてたんだ。清ちやんは海を見た事がないから。」
「そいつは可哀さうだな。猿なんか居ないツてお前話したのか。」
「あゝ。そうしたら泣き出しちやつたの。それからあたい蟹が居るツていつたら、すこし取つて來てくれつていつた。それで……それで……あたい松濱でも蟹は生きると思つた

もンで……いゝや……皆ぶちまけて石でたゝいてやらう。」

「およし〳〵。そんな事するもんぢやない。」とお祖父さんはあわてゝ制して「松濱で生きてゐられないのは蟹のせいぢやないから。」

「たゝきつぶしてやる。」と兼公はきほひ立つていふ。

「およし、およし。お前がもし蟹だつたらそして大きな子供がやつて來てお前を石でたゝきつぶしたらどうする。」

「あたいが蟹なら松濱で生きてる。」と言ひながら、兼公の眼はやつぱり手頃の石を探してゐた。

原田の老人はパイプを岩の上に罪いて、起ち上り、

「清ちやんは蟹をつぶされてよろこぶかい。」

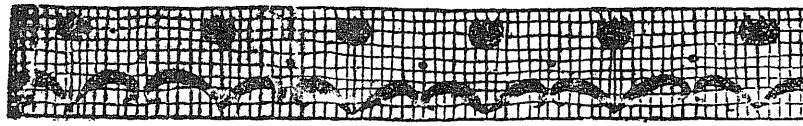
「あゝ、よろこぶよ。」

「そうぢやあるまい。蟹はお前、何もわるい事しもしないのに。」

兼公はちいさい石塊を拾ひ上げて、

「蟹は人間が海に入つてゐるとき足の指を剪むよ。」

「だけど、こんな小さい奴はしないよ。」



「ちいさな奴だつてぢき大きくなる。」と兼公は澄してゐる「こいつから先へつぶしてやらうと罐の中から一疋選び出して岩の上に載せた。

「老人は、兼公のふり上げた手を掴んで、靜に

「兼坊、そんな事をするもンぢやない。」

「どうして。」

「どうしてッてね。」と老人はこの亂暴ものになるほど〻思はせるやうな理屈はないかと思案しながら「これこんなに小さいから。」

「ほんとに小さい奴だ。」と兼公も同意した。そしてこの子が罐を覗いてゐるうちに今の小蟹は岩を辷つて逃げてしまつた。「こゝに大きいのが居る、こいつを、たたきつぶさう。」

祖父はおごそかに、

「兼坊、御前むごい事をしてはならない。大きな巨人(おほをとこ)がお前をつかまいて太い棒でぶち殺さうとしたらいやだらう。」

「巨人なんて嘘だよ。巨人なんて居ないンだよ。」

「何でもいゝから、むごい事はするもんぢやない。」と老人も始末に困つて「蟹を逃がして

おやり、お祖父ちやんをそう困らせないで。ごらん、蟹はこんなに嬉しさうにしてゐるだらう。それを叩きつぶしたりするのは惡るい事だ。そら濱の市の時に子供が多勢走りまはつて遊ぶだらう。この蟹はあの子供達みたようなものだから、お前が叩きつぶしたりしなければありがたがるよ。」

老人の言つた事がどこか子供に感じたと見え、兼公は石を棄てゝ

「ぢや叩きつぶすのよさう。」といつた。

「良い子だな。」

「逃がしてやる。」といつて兼公は罐を逆樣にした。

祖父は孫の頰を撫でゝ、

「お前はむごい事はしないな。さ、も一つお菓子を上げやう。」

「お祖父ちやん、ありがたう。」

「もう蟹をつぶすまいな。」

「あゝ。だけど清ちやんがつまンないだらうな。」

「そうさな。何か清ちやんにやるものを考へなくつちや。何がよからうな。」

「何か生きてるものがいゝんだ。」

「生きてるもの。そいつア因るな。」と老人は再び腰をかけてパイプを口に、水の上を眺めやつて「お祖父ちやんは飼鳥をしてゐる人を知つてるが、清ちやんは小鳥好きかい。どうだね。」

「好きでない。」と兼ちやんはきつぱりと立ちどころに答へた。

「からだが悪くて寝てゐる子供にア、小鳥がいゝんだがな。ピヨ〳〵鳴いてきかせてな。」

「小鳥はぢき死んぢまふよ。床ン中に入れて遊べないや。」

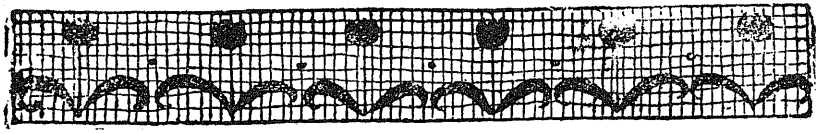
「それもそうだな……小猫はどうだ。荒物屋のおかみさんとこに猫の子が今居るよ。」

「清ちやんとこにも小さな猫が居たんだよ。そうしたら、それが清ちやんの鼻引掻いたもンで、清ちやんの小母さんが追出しちやつたの。それから白い南京鼠も居たんだよ。鼠の子供も居たンだけれど小母さんが清ちやんの床ン中に入れさせなかつたつけ。」

「それぢや、どうも、お祖父ちやんも、何ともしやうがない。」

「蟹が一番いゝんだがな、生きてさへすれば。蟹を箱ン中に飼つておいて、清ちやんとあたいとで毛布の上で競走させるンだつていつたんだよ。でも毛に足が引からまるかもしないね。」

「そうだらう……どうも清ちやんにやる生きてるものツてのは無ささうだな。」



兼ちやんが詰らなさうな顔をするので、お祖父さんも困つて溜息をついてパイプを取落としてしまつた。

「なア、兼坊、寢てゐる子供にやるようなものはたんとないね。清ちやんはその内に全快なるのかい。」

「うゝん。背中がわるンだよ。時々大變痛いンだツてあたい清ちやんになりたくない。」

「それア可哀さうだな。かうしたらどうだらう。」

「お祖父ちやん、なに。」

「夕食に家へ歸るときに、店を見て歩いたらあの清ちやんの悦びさうなものがみつかるかも知れない。」

「今ゆくの。」と元氣づいて兼公がさけぶ。

原田の老人は大きな銀時計を出して見た。

「あゝ、もう行つて、何があるか見よう。坊や手をお出し……オイ、コラ！　お祖父ちやんに驅けさせるなよ。お祖父ちんはお前みたやうに身が輕かないよ。よく足元を氣を付けて。二人でこのツル〳〵途で轉んでしまふは。」

幸ひ何事もなく街起へ出てやがて店のある處へ來た……老人は呼吸をはづませ、兼公は

希望に輝いて。

玩具が一杯並んでゐる店の窓の前で二人は立ち停つて眺めた。

「さア」と老人は財布を出して「拾錢玉一つやる。何でも好きなものお買ひ。」

「ありがたう。何買はう。」

「あの繪のかいてあるミルク注ぎ、あれはどうだ。」

「あれ、だめ。」

「清ちやんに丁度いゝおみやげだがな、『岩磯(いはいそ)みやげ』とかいてある。あれでミルク飲むのいゝぢやないか。」

「いけない。」

「ぢやお前の好きなやうにおし。繪具がある。清ちやんは繪をかくの好きかい。」

「うゝん。あたい好き……あたい大きくなるの繪かくの。ペンキ壺下げてバテの塊もつて。」

「ぢや、清ちやんも……」

「うゝん。」

「あすこに、綺麗な繪本がある。あれはどう……」

「いけない。」

老人は匙を投げてしまつた。

「あたいあの喇叭買はう。」とやつと兼公がいつた。

「清ちやんは寢てゐるンぢや喇叭を吹くのに都合がわるからう。」

「あたいが代つて吹いてやればいゝ。あたい大きく吹けるよ。」

「そうかい。だけと、清ちやんはそれやいやかも知れない。」

「どうして。」

老人がそのわけをいつて聞かせようとする途端に兼ちやんが喜びの聲をあげて。

「あら、あれごらん！　あの隅ンとこに猿がぶらさがつてらア！」

「さアさ、お買ひ〳〵大急ぎで。」と老人も笑つた。

兼公はせき立てられるまでもなく早速買ひ取つて、それを祖父に見せびらかした。泥細工の猿がゴム絲の端でピン〳〵跳ねてゐる玩具だつた。

「ね、生きてるようだね……ね、そら跳んでらア。」といつて兼公は家へ歸りつくまでおもちやにしてゐた。

「清ちやんはきつと喜ぶよ。可笑しがるだらうな。」と老人はいつた。

「あゝ。」と子供はたいして氣乘りがしない返事をした。……清ちやんの事はどうやら一寸忘れてゐたらしかつた。やがてかれは丁寧に猿の首へゴム糸を卷きつけて默りこくッて歩いた。

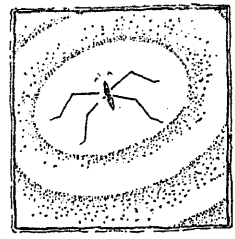
「お前、それを清ちやんにやるんだらう。」と老人が顏をのぞきこむと、

「あゝ」と兼公はかすれ聲で答へた。

（一二）了り

三つ喰へば葉三片や櫻餅　　虚子

花曇り雨降る由井の渚かな　　虚子



自由遊び（二）

ふじの譯

米國東テキサス州師範大學の練習學校長ピツケツト、同大學幼稚園長デニラルデイ、ボーレン著幼兒教育の或部分を譯したのである。吾々幼稚園關係者小學校初學年教師の參考となることか甚だ多いと思はれるから特に本誌に掲載する。

自由遊びの最後の型は、朝中、自由遊びとなつた場合であります。こゝでは子供達はしたいと思つたなら何でもしていゝのです、先生は子供にとつていゝ刺戟を與へる所の材料を子供が見つけ得る所におく樣に氣をつけます。又子供が或る仕事に對して眞に興味を持つて來た時には、與へられた時間内にそれを成就せねばならないとは限らないのです、朝中その仕事をしてもいゝのです。若しも滿足な結果が得られない時には子供達は他の仕事をしてもいゝのです、例へどんなに多くの時間を要するとも、彼がその仕事なり經驗なりに滿足するまでは幾時間でも費させていゝのです。

自由遊びの時、先生は、子供達がいろんな事をするその仕方や、又子供が撰んだ材料や又は解決した事柄試した事柄、及び子供達相互の間の交渉等を靜に觀察しながら、子供の後ろの方にゐなければなりませ

ん。手傳つてくれと云はれた時には手傳つてやらねばなりません又どんな事をしても皆な失敗する時にのみ色々と教へてやらねばなりません。ほゝ笑んだり、頭を撫でたり賞めたり、又は勇氣をつける樣にうなづいたりしてやりさへすれば良い時もあります。子供達が、仕事について先生から干渉を受けるのは、不正直な事をした時とか喧嘩をした時とか又は非社會的な活動をした場合のみであります。

アニタとメリーの二人の女兒はお家を建てました。メリーは大變我儘な子でお人形さんのお皿をみんな占領してしまひました。それでアニタがそのお皿を少し取つたところがメリーは大變に不平に思ひ先生に告口をしました、アニタは我儘でありませんので直ぐ、二三枚返しましたそれでもメリーは滿足しませんのでアニタはみんな返してしまひました。之を見てゐた先生は、メリーに向つてメリーさん自分ばかりお皿を取つてしまふのは公平な事でせうかときゝました。メリーはいや〳〵ながらも仕方なくそんな事をするのは公平でないと云ひました。そこで先生はアニタにメリーさんの持つてゐるお皿を、分けて貰つてもいゝと申しました。

自由遊びの時には、子供は自分で面白いと思ふ事であるならばどんな仕事をしてもいゝのです。作業でも、遊びでも、觀察でも、或は本や繪を夢中になつて見てゐてもいゝのです、或る幼稚園では、こうゆう風に保育案が拵へられてゐるので、毎朝の初めの時間は、働いても又はお外で遊んでいゝのです、彼等の室には、子供らしい興味をそゝるあらゆる材料が備へられてゐます、そして之等の材料を用ひて少

しの干渉も暗示も受ける事なく反應する事が出來るのであります。テーブルの上にはお話の本や繪本が置いてあります。他の机の上には圖畫の道具が一切揃へてあります、小さい仕事師達は之等の準備の中から自分の好きなものを自由に取つていゝのです。又廣い廊下で積木をしてもいゝのです、こうした自由の中で課せられてゐる只一つの條件は、之等の材料を使ふであらう時、又よく氣をつけるであらう時正しく元の所に返して置くであらう時にのみ取り出していゝ、と云ふ事なのです。お室には又遊び道具が備へられてございますお人形、ボール、汽車、鐵製の玩具、おもちやの動物、船、旗、又は自由自在にいろんなものを作る事の出來る積木だの。

然るに或る意味に於て子供の遊びには、差し控へると云ふ樣な事がある樣に思はれます。何故なら彼等は子供らしい方法でもつて、大人の日々の生活を再現してゐるのでありますから。或る日曜の朝數人の子供はお人形のベットに奇麗なシーツをかけてゐました、又家の中のいろんなお道具を整頓してゐました、床拭きなどもしてゐました。それから一人の女の兒は赤ちやんを寢かしつけ樣とてまじめな顏して寢室に座つてゐました。この間二人の他の女の兒は靜に淑女らしく居間の方に座つて居りました。こうゆう遊びは實に沒入全我の生活でございます。

自由遊びの時には子供達は子供ながらの現實の世界に生きるのでございます。子供は時々おまゝごとを致します、テーブルを正しく置いたり等するのでこの遊びは思ひがけない良い訓練を與へますし又多

くの家政の業の練習となります、或る朝一人の男の子が女の兒に僕の奥さんになつて下さいと云ひました、女の兒が承知しましたので二人は積木のお家を建てました。それから他の男の子や女の子に、僕達の子供になつて一緒に住まないかと云ひました。お人形は赤ん坊でした。お母さんが子供達を學校へ出す爲に着物等を着せてやる間お父さんはお守をしました、子供達が學校へ行つてしまつた後でお母さんはお皿を洗つたりテーブル掛をなほしたりお皿をしまつたり床を拭いたりしました。その中に赤ちやんは病氣になつて大變に泣きましたのでお父さんはどうする事も出來ませんでした。

「お母さん、早く來て赤ちやんをだつこして下さい」とお父さんが云ひました、お母さんは直ぐ飛んで來て赤ちやんをだつこしました。するとお父さんは大急ぎで電話口のところへ行き交換手を呼び出しました。「四五六番もし〳〵あなたは先生ですか？　あの、うちの赤ん坊が病氣でございますからなるべく早くゐらして下さいお願いいたします。サヨーナラ」

お醫者は早速來て赤ちやんを診てこう云ひました。「百日咳です。御病氣が治るまでこのお藥をお上げなさい」

この遊びに於ては、模倣と經驗が有力な要素であります。子供達のこうした遊びはこうゆう事を示します、卽ち「遊びの衝動は如何に周圍に適應し易いものであるか、遊びの衝動は子供の周圍に行はれてゐる活動から如何に影響されるものである、又遊びとして模倣したり實行したりする活動は、如何に後

の生活に於て、個體と種族の保存の爲に重大な作きをなすものであるか」と云ふ事を。

時々子供は、周圍の下品な粗暴な事を模倣いたします、彼等は時々人さらいごつこをしようとします。或る朝數人の子供が遊んでゐました。その中で二人の子供はどろぼうでした。そして何かを盜まうとしてそつと家の方へやつて來ました。又女の兒は私は人さらひよ、と云つて、子供をさらつて或家から出て行かうといたしました。先生はこの樣な遊びを止めたり、導いたり、又はこんな遊びはくだらないと云ふことを子供に知らせる樣にしなければなりません。

屢々遊びは手際を樂しむ爲になされます。子供は自分でいろんな事をしたがります。彼等は砂箱の周りに立ち箱やバケツに砂を一杯入れます。そして直ぐにそれをあけたり、又は指の間から滑らしたりいたします、或時はお砂の中に指を突込みます、少し年とつた子供等は濕つた土を欲しがります、そしてたゞそれをいぢつて冷々するのを悅びます、又一見、何も目的を持たない樣に見える遊びにこうゆうのがあります。それは黑板へ釘を打つことです。之は槌を打つリズミカルな音をきいてして見たくなつたり又單にしたくてむづ〳〵するのでしたりするのであります。

子供達は屢々動物の役をいたします。犬の樣に吠えたり、あひるの樣にグワッ〳〵云つたり、猫の樣にニャー〳〵ないたりいたします、或朝犬の遊びをしてゐた四つの子供は吠えながら他の子供を捕へ樣として四つ這になつて床の上を跳び廻つて居りました。その中の一匹の犬は、後になつてバスケットを

口にくわへて肉を買ひに行き、それを家にゐる母犬に運ばうといたしました。

「The kitten and the Bow Wow」の歌は幼稚園の子供の大のお氣に入りです。或る日この歌を歌つた後で一人の兒がこの遊びをしませうと云ひ出しました。みんなが一緒に歌つたりニャ〳〵ないたり吠えたり致しましたので見てゐて大層面白うございました。調子が合ひませんでしたし、又あんまりがや〳〵してゐますからも少しピアノを彈かずに落ちつくのを待つてゐるとよかつた等と、私共大人は、一寸惜しい樣な失敗した樣な感じを持ちましたが子供達にとつてはこんな事は何でもないらしく一向に平氣な樣子でした。

又或る朝數人の子供は曲馬をしようと相談して居りました。彼等は高い垣の代りとして一列に椅子を並べました、この上を象になつた子供は飛ぶのでございました、或る女の兒が「あなたは一等高く飛べるから象がいゝわ」と云ひましたので或る子は象になつたのです。すると他の子供達は象は高く飛べるもんかと云つて前の說に反對いたしました、そしてその垣を越えた子供は象でない他の動物兎でも馬でもになる事にしようと云ふ事にしました、このドラマテツクな遊びは發表のしかたを學ぶ爲に又自分達がなつた動物についての精密な觀察をさせる爲に大變に良い遊びでした。

この垣の問題は曲馬の案をたてる時や動物の生活についての色々な事を計畫する際の出發點として良いねうちのあるいろ〳〵な材料を含んでゐます、併し子供達は時々之等の遊びを家を、建てる問題に代

へてしまひます、何故なら彼等は曲馬をする前に家を建てなければならないと云ふことを皆で相談して決めますから。家を建てる時には遊びの衝動は、いろ〳〵な材料を取り扱つたりいろ〳〵な經驗をしたりする作きに代ります。初めに子供は海狸の皮の四角なのを持つて來て屋根を置かうといたします。そしてその一方を窓の敷居の上にのせ、他方を床上積木で支へます。彼等はしばらくの間壁を拵へ樣といたしますがどうしても出來なくて遂に斷念してしまひます。

家を建てたり等してゐる中に、彼等は曲馬の事をすつかり忘れてしまひます。之は子供の興味は變り易いものであると云ふ事を示す好い例であります。

募告

一、幼稚園及び小學校、家庭、育兒、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。
一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。
一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
日本幼稚園協會

注文規定

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい
居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園內日本幼稚園協會に御申込下さい。
一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金(郵稅共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割增)
一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定價

一ヶ月分一册	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六册	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳册	金四圓貳拾錢	送料共

(外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

大正十五年三月十日印刷
大正十五年三月十五日發行
幼兒の敎育　第二十六卷　第三號

編輯兼發行者　東京府豐多摩郡戸塚町大字戸塚五七五　堀七藏
印刷者　東京市牛込區山吹町一九八　大杉直次郎
印刷所　東京市牛込區山吹町一九八　大杉印刷所
發行所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　日本幼稚園協會　振替口座東京一七二六六番

不許複製
禁轉載

廣告

特等面一頁	金參拾圓	二等面一頁	金貳拾圓
一等面一頁	金貳拾五圓	一頁以下御斷	

神田區南甲賀町八品田奧松に御申込下さい

萬國幼稚園協會案
日本幼稚園協會譯

幼稚園保育要目

定價金壹圓五十錢

幼兒教育の實際家は本書によつて自家の教育案に參考指針を得べく幼兒教育研究家は本書によつて幼兒教育の新らしき考へ方を理解する助を得られることと信じます。購入御希望の方は東京女子高等師範學校附屬幼稚園內日本幼稚園協會宛(振替口座東京一七二六六番)前金(郵稅不要)にて御申込下さい。

文學士 倉橋惣三氏序
日本幼稚園協會編纂

幼兒に聽かせるお話

加藤まさを氏
裝幀挿畫

◆四六版特製本美本
◆紙數六百二十餘頁
◆定價金三圓八十錢
◆送料金二十七錢

增訂改版

このお話の本は、お茶の水の幼稚園で數年に亘つて園兒に聞かした澤山のお話の中から、子供が三度も五度も繰り返へして聞きたがつた特別に面白いものを更に百種選り拔いたものです。つまり無邪氣な眞實な子供によつて嚴密なる審査を經た譯けですから、幼稚園や學校では申すに及ばず、一般の御家庭でも安心して其儘讀んでお聞かせになる事が出來ます。今度の此の改訂の新版では『倉橋先生の序文』の御言葉にも御座います也り、お子供衆の御希望に依つて、活字を大にし全體に總振假名を附けましてどなたにも讀み易く致しました。其の上新しいお話と新しい挿畫を增加致しまして、可愛い蘭新な裝幀を施して皆樣の御家庭へ、新生の書架へと迎へられて行くことを御待ち致して居ります。編者も發行者も、新しい自信と勇氣とを以てこの改訂の新版を皆樣に切にお勸め致します。

東京市日本橋區大傳馬町二丁目
內田老鶴圃
振替東京一二一四六番
電話浪花一三三五番

西條八十氏著
抒情小曲集 哀唱

◇小型深紅色布表裝◇定價金壹圓七拾錢
◇高雅なる裝幀袖入◇送料金拾貳錢

第六版

優雅の、情絢爛の才を以て當代に鳴るこの天才詩人の近作數十篇を收む。若く美しき著者が胸頭はせて歌へるこれらの詩篇は、月光下の薔薇のごとく、薄紗の蔭の佳き瞳の如く、讀者の心を魅了せずんば止まざるべし。裝幀は深紅色の高貴布を用ひて華麗の極!!內容は悉く新作。卷頭に著者の近影を添へたり。

三月の御準備に

●下記の品三月末日迄に御註文の方に限り
荷造送料共御負け致します

保育證書　一枚　￥0.05
（金箔付）保育用品目錄59頁參照）

寫生類　一個　￥0.20
（寫生板掛額兼用）（保育用品目錄 4頁參照）

彩色帖　一冊　￥0.30
（ぬりえ）（保育用品目錄 8 頁參照）

お道具箱（上）　一個　￥1.30
（保育用品目錄64頁參照）

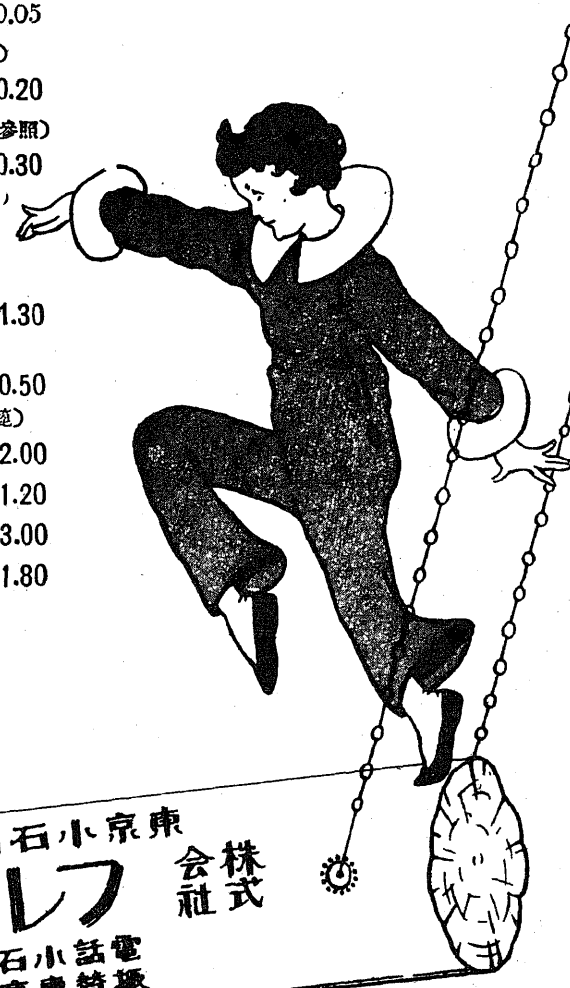
お道具箱（並）　一個　￥0.50
（容器，西洋鋏，クレオン，粘土篦，糊篦）

出席簿用紙　百枚　￥2.00

在園簿用紙　百枚　￥1.20

月謝袋　百枚　￥3.00

豫定案兼日誌　一冊　￥1.80
（一年分）



東京市麻布区霞町
株式会社ベーレフ
電話麻布一〇三六
振替口座東京一六九四〇

幼稚園協會之印

●注文は即時に然らざれば期末は立て込みます●